

茗溪



春

2025

令和7年

no.1124

目次

- グラビア 01 ~ 02
- 令和6年度茗溪会賞受賞者・活動内容一覧 03
- 第14回定時総会開催（6/21）のご案内（令和6～7年度代議員一覧） 04
- 地域組織の役員及び総会・研修会予定 05
- 茗溪・筑波産業人倶楽部Ⅱ報告 06 ~ 08
- 筑波大学落語研究会50周年報告 09
- 令和6年度追悼のつどい報告 10 ~ 11
- 中等教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた動向 12 ~ 13
- Peer Garden（茗溪アルバム） 14 ~ 15
- 知の提供・誌上講座（大学改革30年がもたらした功罪） 16 ~ 17
- 桐の葉のつどい 17
- 元素講話こぼれ話 第8話 18
- 茗溪・東西南北 19
- 追悼録 20
- 桐の葉のつどい 21
- 茗溪フェロー協力者で芳名 22
- 筑波大学は今 23 ■ 茗溪学園だより 24
- 広報 25 ■ 表紙写真について 25 ■ 編集後記 25





安全に、快適に、正確に
大曽根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 一也

☆GOアプリ配車

☆貸切バス事業者より

安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑 3 丁目 19-4

TEL 029-864-0301

FAX 029-864-4727

メールアドレス http://www.taxi.e-tsukuba.jp

フリーダイヤル 0120-000-302

各営業所に通じます



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO
SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

若溪会担当：専務取締役 岡本 俊一

〈昭和56年 第一学群 社会学類 卒業〉

<https://www.sekisho.co.jp/>

KAIT

**力と自信がつく教育で
「考え、行動する人材」を育成します。**

■工学部

機械工学科

電気電子情報工学科

応用化学生物学科

■情報学部

情報工学科

情報ネットワーク・コミュニケーション学科

情報メディア学科

情報システム学科

■健康医療科学部

看護学科(看護師・保健師養成課程)

管理栄養学科(管理栄養士養成課程)

臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄(S52 理)

林 忠(S58第1自)

吉川 亮(S60第2比)



神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>



- ① 宣揚歌 (2/08 岐阜茗溪会)
 ② 野崎支部長挨拶 (12/07 山梨支部)
 ③ 乾杯風景 (2/08 岐阜茗溪会)



- ④⑤ 若手会員で乾杯。勢いで夜の街へ繰り出した (2/08 岐阜茗溪会)
 ⑥ 若手会員で乾杯 (11/30 宮城支部)
 ⑦ 講演会—桐の葉の頃 (11/30 宮城支部)
 ⑧ 宣揚歌 (12/07 山梨支部)



明るく元気な茗溪会



茗溪・筑波産業人倶楽部 (2025/2/22, 茗溪会館) ①



②



④



③

- ① テーブルCで乾杯
- ② いちご農家：池田美由紀(H20 資源)の発表
- ③ ワイン醸造家：本多 孝(H03 社会)の発表
- ④ 再会：桐本泰一(S60 芸専)と蟹江吉弘(S61 人文)
- ⑤ クラウン：大棟耕介(H04 体専)の大技
- ⑥ 板橋英之(H03 博化)による「宣揚歌」リード



⑤



⑥

令和6年度 茗溪会賞（大学院修了者）受賞者一覧

学術院・研究科	研究群	専攻・プログラム	氏 名	活 動 の 名 称
人 文 社 会 ビ ジ ネ ス 学 院	科学 研究 群	人文学学位プログラム言語学サブプログラム博士前期課程	小畑 文佳	生成AI、機械学習による手法も含めた日英語の文章自動評価研究における優れた貢献
		人文学学位プログラム英語教育学サブプログラム博士前期課程	古川 祐太郎	英語教育学分野の顕著な学修成果
	科学 研究 群	国際日本研究学位プログラム博士後期課程	東平 福美	日本語教育の制度と実践に関する顕著な学修成果
		法学学位プログラム(博士前期課程)	吉川 純一	法人税法の観点からみた金融商品会計に係る顕著な学修成果
	一	(博士前期課程)経営学学位プログラム	水谷 千乃	企業の人材マネジメントと組織行動分野における研究への顕著な貢献
		(博士後期課程)経営学学位プログラム	飯岡 靖武	コーポレートガバナンス分野の顕著な学修成果
理 工 情 報 生 命 学 術 院	科学 研究 群	法曹専攻(専門職学位課程)	小野木 資	法曹専攻での顕著な学修成果
		国際経営プロフェッショナル専攻(専門職学位課程)	富山 斎	子どもの園(児童養護施設)への募金ボランティア活動
	科学 研究 群	生物学学位プログラム(博士前期課程)	三上 恭平	動物発生・生理学分野の顕著な学修成果
		生物資源科学学位プログラム(博士前期課程)	星野 真生	小中高生に対する科学啓蒙ボランティアおよび研究活動支援
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 群	山岳科学学位プログラム博士前期課程	中城 拓真	清流に生育する水草バイカモの保全・再生に関する社会啓蒙活動
		(博士前期課程)ライフイノベーション(生体分子材料)学位プログラム	Jerry Muganda Wanyonyi	アフリカ留学生リーダーシップによるアフリカと日本をつなぐ架け橋活動
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 群	社会工学学位プログラム博士前期課程	柳 智也	データ解析分野の顕著な学修成果
		社会工学学位プログラム博士前期課程	飛松 涼太	都市人口の年齢構成遷移と市街地構造・生活利便施設アクセシビリティに関する研究実績
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 群	社会工学学位プログラム博士前期課程	森 成諒	関係人口拡大への産官学民を通じた取り組みによる筑波大発社会貢献活動の顕著な成果
		(博士前期課程)リスク・レジリエンス工学学位プログラム	樋崎 恵一	電動キックボード・シェアリングの社会的受容に関する発信活動
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 群	情報理工学位プログラム博士前期課程	角田 陸	学術会議WISS2023が行った公開配信での研究発表
		知能機能システム学位プログラム博士前期課程	山岸 峻造	スポーツ計算科学分野の研究に関する顕著な学修成果
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 群	知能機能システム学位プログラム博士前期課程	石島 諒一	水中音響通信分野の顕著な学修成果
		知能機能システム学位プログラム博士後期課程	土屋 充志	音響工学分野の顕著な学修成果
	シ ス テ ム 情 報 工 学 研 究 群	(博士前期課程)構造エネルギー工学学位プログラム	Nguyen Nam Quoc	在日ベトナム人学術ネットワークへの貢献
		数学学位プログラム博士前期課程	海野 哲也	Tsukuba Workshop for Young Mathematiciansの運営
	数 理 物 質 科 学 研 究 群	数学学位プログラム博士前期課程	谷中 勝哉	Tsukuba Workshop for Young Mathematiciansの運営
		物理学学位プログラム博士前期課程	確永 光崇	天文学分野の顕著な学修成果
	数 理 物 質 科 学 研 究 群	物理学学位プログラム博士前期課程	小野寺 駿太	量子センシング分野の顕著な学修成果
		化学学位プログラム博士前期課程	川本 優也	超分子化学分野の顕著な研究成果
	数 理 物 質 科 学 研 究 群	化学学位プログラム博士前期課程	安済 統瑚	修士論文における有機化学分野の顕著な学修成果
		応用理工学学位プログラム	谷本 梨帆	つくば共鳴教育プログラムを利用した新たな研究領域の創成と日仏文化交流活動
	数 理 物 質 科 学 研 究 群	NIMS連係物質・材料工学サブプログラム博士後期課程	山田 知穂	キャンパスライフ魅力発信動画コンテスト・グランプリ受賞
		国際マテリアルズイノベーション学位プログラム博士前期課程	山田 知穂	キャンパスライフ魅力発信動画コンテスト・グランプリ受賞
人 間 総 合 科 学 学 術 院	人 間 総 合 科 学 学 術 院	修士課程フロンティア医科学学位プログラム	遠藤 望実	医科学分野(分子生物学研究)における顕著な学修成果
		教育学学位プログラム博士前期課程国際教育サブプログラム	島 沙也加	外国につながる子どもの教育支援活動
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	心理学学位プログラム心理臨床学サブプログラム博士前期課程	氏原 拳汰	ヤングケアラーに関する社会的な認知啓発活動及び支援活動の実施
		心理学学位プログラム心理臨床学サブプログラム博士後期課程	渡邊 健蔵	高校生への攻撃行動の心理学的研究知見に基づく教育実践活動
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	障害科学学位プログラム博士前期課程	木村 柊里	特別支援教育・インクルーシブ教育分野の顕著な学修成果
		障害科学学位プログラム博士後期課程	朝日 華子	ヤングケアラー研究分野の顕著な学修成果と社会啓発活動への貢献
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	カウンセリング学位プログラム(博士前期課程)	井原 英昭	カウンセリング分野の顕著な学修成果
		カウンセリング科学学位プログラム(博士後期課程)	松尾 真規子	母性衛生分野における顕著な学修成果
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	リハビリテーション科学学位プログラム(博士前期課程)	中西 純	理学療法分野における性的マイノリティ支援に関する活動
		リハビリテーション科学学位プログラム(博士後期課程)	大塚 栄子	高次脳機能障害者の社会参加に関する支援活動
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	ニューロサイエンス学位プログラム博士前期課程	二川 愛紗子	眠気を誘導するメカニズムの解明
		ニューロサイエンス学位プログラム博士後期課程	水上 璃子	神経生理学分野の顕著な学修成果
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	博士前期課程看護科学学位プログラム	永田 友実	プレコンセプションケア啓発活動を通じた地域貢献、周産期メンタルヘルス分野の論文発表による顕著な学修成果
		体育学学位プログラム博士前期課程	橋本 昇悟	スポーツバイオメカニクス分野の顕著な学修成果
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	デザイン学学位プログラム博士前期課程	吉田 実紀	「リノベスクール」による古民家再生の実践 ー茨城県かすみがうら市の古民家を対象としたアクション・リサーチー
		デザイン学学位プログラム博士後期課程	河西 大介	認知症高齢者の散歩に着目した介護サービス施設屋外環境の分野における顕著な学修成果と当分野への貢献
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	スポーツウェルネス学学位プログラム博士前期課程	高橋 杏子	ヘルス分野の顕著な学修成果
		芸術学学位プログラム(博士前期課程)	大野 紗英	福島震災復興への支援と貢献
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	世界遺産学学位プログラム博士前期課程	李 詩涵	世界遺産学分野の研究の発展における顕著な貢献
		世界遺産学学位プログラム博士後期課程	王 昱	世界遺産学分野の研究の発展における学習成果
	人 間 総 合 科 学 学 術 院	情報学学位プログラム(博士前期課程)	山口 果那	研究分野の顕著な学修成果、社会貢献としての出版活動および音響文化振興への支援
		情報学学位プログラム(博士前期課程)	山口 果那	研究分野の顕著な学修成果、社会貢献としての出版活動および音響文化振興への支援
グ ロー バ ル 教 育 院	一	ヒューマニクス学位プログラム(一貫制博士課程)	中田 慎也	基礎睡眠科学分野における顕著な研究成果
人 間 総 合 科 学 研 究 科	一	障害科学専攻博士後期課程	宮地 裕久	理学分野の顕著な学修成果
	一	感性認知脳科学専攻博士後期課程	村川 友哲	神経科学分野における顕著な学修成果
	一	3年制博士課程ヒューマン・ケア科学専攻社会精神保健学分野	遠見 才希子	性暴力予防教育分野の顕著な社会貢献
グ ロー バ ル 教 育 院	一	エンパワーメント情報学プログラム一貫制博士課程	澤田 翔太	先進的な教育工学分野の顕著な学修成果と社会への貢献

令和6年度 茗溪会賞（芸術部門）受賞者一覧

所 属	領 域	氏 名	作 品 名 ・ 論 文 名
デザイン学学位プログラム	一	若山 新太郎	やわらかい建築
芸術学学位プログラム	構成	大久保 智子	moire 2412
芸 術 専 門 学 群	建築デザイン	田中 弥呼	学校めぐり、めぐりあい
	日本画領域	北禁 杏侑	慈雨

第14回 定時総会

日 時：令和7年6月21日(土) 13:00～17:00

会 場：茗溪会館（2階 茗溪の間）

開 会

理事長挨拶

議 案

第1号議案 令和6年度事業報告、決算書類及び監査報告の承認

第2号議案 令和7年度事業計画(案)及び予算(案)その他

報告他



地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅徒歩3分
茗荷谷駅方面から見た茗溪会館

令和6・令和7年度 一般社団法人茗溪会 代 議 員 一 覧

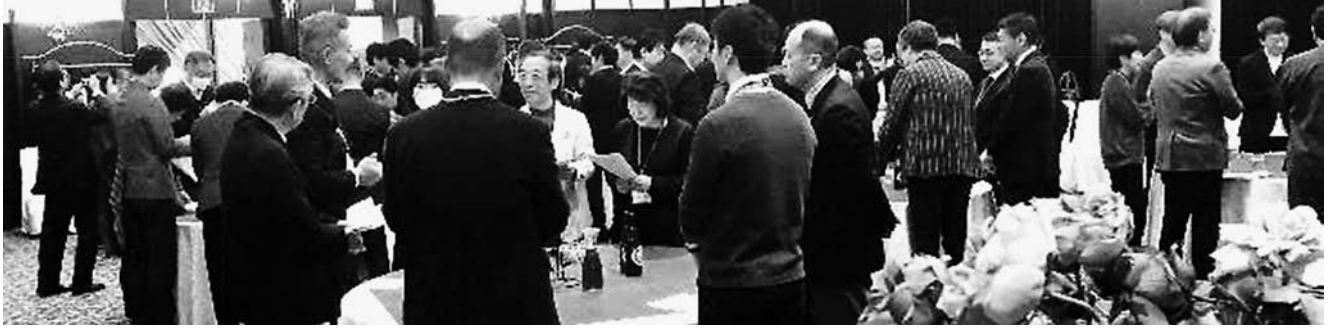
地域組織	姓 名	卒年卒科・群	地域組織	姓 名	卒年卒科・群	地域組織	姓 名	卒年卒科・群
筑波大	伊藤 純郎	昭56筑一人文	東京	掛谷 一夫	平2筑一社会	愛知	丹後 茂	昭63筑体
筑波大	山澤 学	平11筑博歴人	東京	飯島 睦子	昭56筑修教	岐阜	阜 増田 智至	昭63筑二農林
名誉教授の会	大嶋 建一	昭44東北大理	東京	井上 芳明	平1筑体	滋賀	樋口 康之	昭61筑体
北海道	川口 淳	昭56筑一自然	東京	海老沢敬子	昭62筑二農林	三重	岡村 芳成	昭63筑一自然
青森	工藤 清彦	昭61筑体	東京	久保 淳	昭56筑体	京都	三橋 利彦	昭58筑体
岩手	高橋 縁	昭60筑二人間	東京	笹 のぶえ	昭56筑二比文	大阪	戸井田克己	昭59筑二比文
宮城	土生 善弘	昭62筑体	東京	高橋 誠	昭42教大心	大阪	近藤 潤	昭59筑体
秋田	筒井 勝	昭62筑体	東京	竹村 恭一	昭56筑一自然	兵庫	岸部 健司	昭63筑体
山形	津田 浩	昭58筑一自然	東京	堀川 勝史	昭61筑体	奈良	谷垣 康	昭53筑一人文
福島	伊豆 幸男	昭55筑一自然	東京	三橋 浩志	昭63筑一自然	和歌山	森 文哉	昭63筑体
茨城	秋本 光徳	昭61筑一人文	東京	金田 喜明	昭56筑一人文	鳥取	小倉 健一	昭53筑体
茨城	中澤 斉	昭60筑一自然	東京	田中 修	昭54筑二農林	島根	西村 覚	昭61筑体
茨城	中島 博司	昭57筑一人文	東京	松村 直樹	昭61筑修環	岡山	長尾 隆史	昭55筑体
茨城	高村 祐一	昭61筑一人文	神奈川	大石 進	昭56筑体	広島	大辻 明	昭47教大体
茨城	中根 一明	昭56筑三社工	神奈川	中野久美子	昭57筑体	山口	開地 元典	昭59筑二生物
栃木	前橋 均	昭62筑二比文	神奈川	石川 裕子	昭57筑二人間	徳島	藤川 美和	昭63筑一人文
栃木	小島 雄一	昭63筑一自然	神奈川	加藤 充洋	昭56筑一社会	香川	土居 真也	昭63筑体
群馬	今井 貴子	昭63筑体	神奈川	塚本 格	平8筑三社工	愛媛	川野 光正	平2筑体
埼玉	細田 幸一	昭50教大独	山梨	小林 智	昭63筑修教	高知	楠瀬 誠悟	昭61筑一自然
埼玉	小林 一郎	昭52教大國	長野	石川 裕之	昭60筑一人文	福岡	加藤 茂文	平5筑修体
埼玉	平野 正美	昭54筑二比文	長野	宮坂 博昭	昭61筑二比文	佐賀	松雪 誉	昭61筑体
千葉	猿渡 末治	昭55筑一自然	新潟	中島 郁雄	昭53筑体	長崎	岩橋 英夫	昭63筑体
千葉	山崎 成夫	昭56筑体	富山	中村 謙作	昭62筑一自然	熊本	田畑 淳一	昭62筑二農林
千葉	渡部 徹	昭57筑一人文	石川	居村 吉記	平1筑体	大分	加藤 寛章	昭62筑体
千葉	西川 和樹	昭59筑一自然	福井	牧野 保彦	昭63筑一自然	宮崎	児玉 洋一	平2筑三社工
東京	柳 久美子	昭50教大體	静岡	石川 徹	昭63筑一人文	鹿児島	黒木 哲二	昭62筑二比文
東京	眞當 哲博	昭57筑二人間	静岡	鈴木 康之	平2筑修教	沖縄	縄 前門 晃	昭58筑博理
東京	浅井 一郎	昭55筑一人文	愛知	竹下 裕隆	昭56筑一社会			
東京	栗原 茂夫	昭55筑二比文	愛知	柴田 悦己	昭61筑二比文			

令和7年度 地域組織の役員及び総会等の予定

*2025/3/25現在

No.	名 称	支部長・会長	連絡窓口	メールアドレス	開催予定日時	開催予定場所	備 考
1	筑波大茗溪会	伊藤 純郎	野崎 芳恵	tsu3jimu@meikei.or.jp	R7.7月、R8.2月	筑波大学大学会館	
2	名誉教授の会	白岩 善博	新井 達郎	emeritus@meikei.or.jp	未定	筑波大学大学会館	
3	北海道茗溪会	川口 淳	尾形 友秀	hokkaido@meikei.or.jp	R7.5.17(土)	ネストホテル札幌駅前	
4	青森支部	工藤 清彦	工藤 誠司	aomori@meikei.or.jp	未定	未定	
5	岩手支部	高橋 緑	清水 茂幸	iwate@meikei.or.jp	未定	未定	
6	宮城支部	土生 善弘	山崎 健二	miyagi@meikei.or.jp	R7.11.29(土)17時	ホテル白萩	
7	あきた茗溪会	筒井 勝	田口 良実	akita@meikei.or.jp	R7.7.12(土)	秋田市内(会場未定)	
8	山形県支部	石山 宣浩	武田 宏典	yamagata@meikei.or.jp	R7.11月下旬	未定	
9	福島県茗溪会	佐藤 弘樹	渡邊 優輔	fukushima@meikei.or.jp	R7.7.5(土)	福島市内	
10	茨城茗溪会	海老澤 浩一	花沢 典行	ibaraki@meikei.or.jp	R7.8.11(月)	ホテルレイクビュー水戸	
11	栃木県茗溪会	前橋 均	今井 和彦	tochigi@meikei.or.jp	R7.7.19(土)	ホテルニューイタヤ	
12	群馬支部	丸橋 覚	櫻澤 正明	gunma@meikei.or.jp	未定	未定	
13	埼玉支部	春山 賢男	青木 勇藤	saitama@meikei.or.jp	未定	未定	
14	千葉支部	百瀬 明宏	大久保利宏	chiba@meikei.or.jp	R7.7.6(日)	京成ホテルミラマーレ	
15	東京茗溪会	高橋 基之	栗原 茂夫	tokyo@meikei.or.jp	R7.11.30(日)	茗溪会館	講演会開催
16	神奈川茗溪会	加藤 充洋	大石 進	kanagawa@meikei.or.jp	R7.7.19(土)11時半	ホテル・ザ・ノットヨコハマ	
17	山梨支部	野崎 哲司	京ヶ島 みどり	yamanashi@meikei.or.jp	R7.7月中旬予定	未定	
18	長野県支部	倉田 慎司	卯之原 勇輝	nagano@meikei.or.jp	R7.6.22(日)	ホテルモンターニュ	
19	新潟茗溪会	中島 郁雄	鹿俣 譲	niigata@meikei.or.jp	R7.6.28(土)13時	サンルート新潟	
20	富山支部	辻本 努	橘 和徳	toyama@meikei.or.jp	未定	未定	
21	石川支部	居村 吉記	神田 康	ishikawa@meikei.or.jp	未定	未定	
22	福井県支部	熊野 善明	市岡 勇一	fukui@meikei.or.jp	R8.2.7	福井市	
23	静岡県支部	石川 徹	鈴木 康之	shizuoka@meikei.or.jp	R7.6.14(土)15:30	クーボール会	
24	愛知支部	竹下 裕隆	丹後 茂	aichi@meikei.or.jp	R7.7.6(日)16時	ルブラ王山	
25	岐阜茗溪会	増田 智至	蒲 尚胤	gifu@meikei.or.jp	R8.2月予定	未定	
26	三重茗溪会	岡村 芳成	佐野 真也	mie@meikei.or.jp	未定	未定	
27	MKS (関西ブロック)	香山 恭慶	香山 恭慶	kayama1547@outlook.com	R7.11.13(木)	未定	
28	滋賀支部	脇坂 高峰	長瀬 慎吾	shiga@meikei.or.jp	未定	未定	
29	京都茗溪会	遠山 秀史	藤原 秀規	kyoto@meikei.or.jp	R7.11月予定	未定	
30	大阪茗溪会	戸井田 克己	北 邨 淳	ohsaka@meikei.or.jp	R7.6.14(土)	道頓堀ホテル	
31	兵庫支部	岸部 健司	新井 友彦	hyogo@meikei.or.jp	未定	未定	
32	奈良茗溪会	谷垣 康	井上 徳之	nara@meikei.or.jp	R7.7.5(土)	未定	
33	和歌山茗溪会	森 文哉	古家 雅之	wakayama@meikei.or.jp	R7.7月予定	和歌山市内のホテル	
34	鳥取県茗溪会	小倉 健一	美多賀 孝裕	tottori@meikei.or.jp	未定	未定	
35	島根県支部会	境 英俊	西村 覚	shimane@meikei.or.jp	未定	未定	
36	岡山支部	長尾 隆史	長尾 隆史	okayama@meikei.or.jp	未定	未定	
37	広島支部	大辻 明	若井 研治	hiroshima@meikei.or.jp	未定	未定	
38	山口支部会	開地 元典	藤本 秀夫	yamaguchi@meikei.or.jp	R7.10.11(土)	未定	
39	徳島茗溪会	藤川 美和	竹本 佐知子	tokushima@meikei.or.jp	R7.7.20(日)	ホテルグランドパレス徳島	
40	香川茗溪会	村上 盛彦	飯尾 美保	kagawa@meikei.or.jp	R7.11月予定	未定	
41	愛媛茗溪会	川野 光正	辻岡 英幸	ehime@meikei.or.jp	R7.8.3(日)12時	にぎたつ会館	
42	高知茗溪会	楠瀬 誠悟	手林 慎一	kouchi@meikei.or.jp	未定	未定	
43	福岡茗溪会	堤 隆広	片山 英和	fukuoka@meikei.or.jp	R7.7.5(土)	八仙閣 本店	
44	佐賀県茗溪会	松雪 誉	松本 真知	saga@meikei.or.jp	R7.6.28(土)	グランデはがくれ	
45	長崎茗溪会	岩橋 英夫	大水 征史	nagasaki@meikei.or.jp	R7.6.21(土)13時	セントヒル長崎	
46	熊本支部	田畑 淳一	河崎 剛	kumamoto@meikei.or.jp	未定	未定	
47	大分県茗溪会	加藤 寛章	押田 武	oita@meikei.or.jp	R8.2月予定	未定	
48	宮崎県支部	児玉 洋一	川内 健二	miyazaki@meikei.or.jp	未定	未定	
49	鹿児島茗溪会	黒木 哲二	前 和樹	kagoshima@meikei.or.jp	未定	未定	
50	沖縄茗溪会	前門 晃	三輪 一義	okinawa@meikei.or.jp	未定	未定	

茗溪創基150周年記念 茗溪・筑波産業人倶楽部Ⅱ



●プロローグ

ZOOM画面に、打合せの面々が揃った。前回の終了間際、「今回は紹介コーナーを用意しよう」という企画を受け、依頼に快諾した面々の会合である。

群馬の板橋英之(H03筑博化)：群馬大副学長、学内に(株)グッドアイを設立

新潟の本多孝(H03筑大社)：ワイン醸造家。ワイナリー「フェルミエ」創業

佐賀の池田美由紀(H20筑大生)：有田いちごとしてブランド化を目指す苺農家「みゆきファーム」を設立

石川の桐本泰一(S60筑大芸)：輪島塗に関わる事業を展開

愛知の大棟耕介(H04筑大体)：ウクライナや能登など、世界を駆けるクラウン、(有)プレジャー企画を設立

多忙の中、時間を限っての打合せである。桐本を除く4人は、「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開の会」(2023.12/9)に参加し、概要や雰囲気を感じていたので、ラフな説明だけで済ませた。

情報提供の内容(10分程度)

- ・手掛けている事業
- ・製品の紹介(試食、試飲も含む)
- ・課題や今後の展望
- 3つの「配」の確認
- ・配付：当日、配付したいもの
- ・配列：当日、円卓に配列したいもの
- ・配送：茗溪会宛に送付するもの

●産業人倶楽部Ⅱが始まった

広い会場に続々と入場する参加者を前に、大棟がパフォーマンスを始めた。大道芸である。大棟の手招きで入場者は会場前方に席を移す。笑いと拍手が交差し、ざわめきが鎮まっていく。



大棟が、桐本を紹介する。

能登半島に大雪警報が発せられていた。前日に輪島から移動し、当日は金沢から茗溪会館へとやってきた。

桐本は、輪島の惨状と復興、そして、輪島塗の世界について映像を交えて紹介した。参加者は、桐本が持参した作品を手、桐本の話に耳を傾けた。



大棟と桐本によるオープニングは、大きな感動と拍手の中で終えた。

司会が『茗溪創基150周年記念誌』を手に、ある文章を紹介した。30年前(現茗溪会館の着工の年)、季刊誌『茗溪』(999号、1993.10/15)に、井口理事長が寄稿した「企業人の雑言」である。

寄稿文は、「街には東京オリンピック開会前の熱気があふれる」中で就職活動を始めた思い出から始まる。

「なぜ教師にならないの」：「試験は受けてもいいよ。難しいと思うけれど」：などと人事担当に言われながら、苦労の連続の中でようやく内定を得、こうして始まった企業人の生活が30年を経た時に寄せた文である。

紹介の後、理事長が挨拶に立った。



- ① オープニング・パフォーマンスをする大棟氏
- ② 輪島塗について熱く語る桐本氏
- ③ 挨拶をする井口理事長

挨拶の中で、産業人倶楽部の開催意図が示され、その企画規模を広げ続けることの意味について、展望を述べられた。

●茗溪の水

茗溪会が産業界など各界に対して組織的な働きかけを始めたのは、井口理事長が企業人となった昭和40(1965)年のことである。

その年、「国会議員を囲んで―会員懇親会」(1965/8/5)や「人事部業界懇談会」(1965/11/9)が開催された。

翌年、「東京マスコミ部会懇親会」(1966/4/27)が茗溪会館で開催され、11月には、「人事部業界懇談会」が「業界・官界茗溪会員懇親会」と開催名を変更して丸ビル「精養軒」で開催され、200余名の盛会を得ている。

この動きによって、各界会員の交流へと一歩を踏み出す手筈が整えられたが、筑波移転をめぐる諸事情によって事態は滞ったまま月日が流れた。

やがて、茗溪会百周年を迎える時期を迎え、「茗溪マスコミ会」をはじめとして各界との交流の動きが再び始められ、平成中期まで、その動きは継続していた。

令和の時代となり、茗溪創基150年を機に活発化した「異業種交流」の動きは、昭和、平成に続く「第3期」といえるのかもしれない。

記念事業として開催された「茗溪・筑波産業人倶楽部」の発会式(2018/7/22)に続く、「茗溪・筑波産業人倶楽部全国展開発表の会」はコロナ禍によって延期を余儀なくされ、一昨年の暮れに開催できた。それに前後して、「異業種交流」の動きが、各地で始まっていた。

東京茗溪会は、いち早く、「茗溪・筑波大学産業人会」(2015/6/17)を立ち上げ、毎月第3水曜に茗溪会館を会場に開催していた。コロナ禍により、第48回(2020/2/19)を数えて中断を余儀なくされたが、一昨年から再開し、昨年は、偶数月に6回の開催をしている。



平成31年、大阪では、「茗溪関西・教育研究・産業人会議(MKS)」の第一回会合が開催された。教育界・産業界・官界の交流を近畿全域で展開する目的で企画運営していくという内容であった。昨年、第3回目の会合(2024/11/21)が開催された。

昨年は、東京、大阪に続き、九州全域を対象とした「茗溪倶楽部in博多―異業種交流会」(2024/11/9)が開催された。年が変わって、2月早々に、愛知、岐阜、静岡、三重地域を対象とした「茗溪・筑波産業人倶楽部in名古屋」(2025/2/2)が開催された。

東京、大阪は、話題提供者の発表の後に懇談が始まり、着席が基本だ。博多、名古屋は、自己紹介と小さな乾杯が繰り返される立食が基本のようだ。それぞれ、運営や進行方法、開催名は異なり、これからは試行錯誤が繰り返されるだろう。いずれにしろ、この動きは、教育界とともに、「茗溪の水」として、大きな流れとなっていくに違いない。



④ 茗溪・筑波産業人倶楽部(東京、2024/2/21) 話題提供「ロボットを街に出そう」(坪内孝司)
⑤⑥ 茗溪関西・教育研究・産業人会議(MKS)」(大阪、2024/11/21)
⑦⑧ 「茗溪倶楽部 in 博多」(博多、2024/12/9)
⑨ 「茗溪・筑波産業人倶楽部 in 名古屋」(2025/2/2)

●ふたたび、茗溪会館の会場へ

理事長挨拶の後、「企業人の雑言」の後半を、事務局の小山恵子が朗読した。

「企業は人類全体にとってかけがえない地球の土地を使い、水を使い、資源を使い、人を使い、そして製品・サービスを創造します。しかし、時として、土地を汚し、水を汚し、資源を枯渇させ、空気を汚し、人を痛めることすらあります。企業は製品、サービスの提供により、人々の生活に利便をもたらし、文化にあふれる機会、人材、能力の開発の機会を創り出します。その結果得られる利益を再投資して、よりこのことを前進させます。だから存在が許されるのだ、と言い切つてよいものか否かを考えているところです」

「企業が存在し競争し続けることが、なぜ世の中で認められているのかを考えると、企業と社会とのかかわり方についての答えが出せるのではないか」…これは、茗溪会の異業種交流における基本姿勢のひとつとなりうるのかもしれない。

●テーブルを囲んで

全体の流れの説明を終えた後、参加者は最初のテーブルにそれぞれ移動した。会場には大きな円卓が8卓おかれ、それぞれ10名ほどが集まる。

参加者は当日参加者も入れて、75名。前回参加者が多くいたので、進行についての説明は簡略にし、自己紹介の時間(60秒間)を体感していただいた。

こうして、自己紹介と小さな乾杯、そしてテーブル移動が繰り返された。



- 10 各テーブルで自己紹介が行われた。
- 11 12 13 当日配付された参加者の紹介文に目を通し、熱心にメモをとる姿が散見された。
- 14 15 1分間の自己紹介を終えて、小さな乾杯。
- 16 17 18 19 小さな乾杯の後で記念撮影
- 20 21 22 名刺交換をする参加者
- 23 24 プレゼンをする池田さんと板橋氏。池田さんは会終了後、苺の世話で佐賀に戻った。
- 25 板橋氏は、参加者にエールを送った。



板橋のリードで「宣揚歌」が大合唱され、盛り上がりの中、花木大樹(27体専)根岸菜奈(28修社)、そして学生の青木喜大(生物)、若手三人による一本締めにて、会を終えた。

●大団円

大棟の進行により、池田、板橋、本多によるプレゼンテーションが行われ、参加者の喝采を浴びた。

●プレゼンテーション



落語研究会

創立50周年顛末記

筑波大学落語研究会OB・OG会「筑笑会」

事務局長 香車亭 呆枝

(前田和明 H11 筑一社会)

筑波大学落語研究会は、2024年度に創立50周年を迎えました。これを祝し、2014年度の創立40周年に続き筑大落研OB・OG会「筑笑会」では記念事業を盛大に挙行了しました。その内容は、東京とつくばでの記念落語会と懇親会、会員が現役当時の反省や思い出の場所をつづり落研の歴史を網羅した記念誌の発行、会員デザインによるオリジナル手ぬぐいの作成、Zoomを使った大喜利練習会、そして、高級高座布団を記念品として現役に贈呈と、結構やり尽くしました。

50周年記念事業は2023年初夏に珍々亭はえ太(10年入学)が「50周年で何かやりましょう」とひとりで声を上げたことから始まったのです。

事業内容は文字にすれば数行でままとまってしまうですが、40周年記念事業での燃え尽き感や学園祭の運営ルールの厳格化、さらにコロナ禍による活動の停滞と現役との交流の希薄化を、まず乗り越える必要がありました。

そこで有志が定期的なミーティングを重ね、「リハビリ会」と称する稽古会の実施、チャットサービスの導入、会報を再開させるなどして各会員にメッセージを送り機運醸成を図りました。また、現役が開催する落語会を観覧

し、会がハネた後まで残り、「この人たち、なんで帰らないんだ?」という心の声が聞こえたところで、「怪しい者ではなく、落研のOB・OGだよ」と笑顔で語り掛けることで彼らと距離を縮めることができました。…うん、できたはず。「現役と筑笑会双方にとつての50周年」であることを理解してもらい、メモリアルイヤーを迎えたのでした。

さて、記念事業のメインは記念落語会と懇親会です。24年9月にアサヒビル本社(金色のオブジェが乗ってる例のビル)に隣接する「すみだリバーサイドホール」にて落語会を行いました。そういえば40周年の落語会もここでやりました。デジャブです。

前座は、演者で最年少(23年入学)の現役2年生、七海亭鉄寅(ななみてい・てとら)。二番手は一転して最年長(86年入学)の香車亭年五楼(やりてい・としごろう)。その世代差、実に37年。世紀どころかミレニアムを越えた競演がなされるのも50周年だからこそ。このほか現役会長の百科亭相迷(ひやつかてい・そうめい)や各世代のOB・OG、さらには立川志の輔門下の立川志のぼん(95年入学)(筑大落研での高座名:麗久舎小砲棒「れいきゅうしや・こつぽ」)もネタを披露。古典・新作、江戸・上方、プロ・アマ、10代からアラ還まで、バラエティーに富んだ番組となりました。

現役とOB・OG混成での大喜利では、司会を務めるてなもんや満偶数(まぐうす)(91年入学)が自分のバッグが行方不明となったとかで、進行そつ

ちのけで来場客に「バッグを見た人は教えてほしい」と懇願する始末。ナニやってんすか!?

落語会の後は、アサヒビル本社ビル(例のビル)内のレストランに移動しての懇親会。そういえば40周年の懇親会もここでした。はい、デジャブです。現役2年から最年長は落研顧問の石塚修教授(80年入学)(高座名:筑波亭醉笑「よいしやう」)まで、40名近くが顔を合わせました。締めには古来より落研に伝わる宴会芸の「金毘羅船」「花火」を歌い踊り、にぎやかにお開きとなりました。

続いて、つくばでの記念落語会は、25年2月につくばセンタービル内の「コリドイオ」で開催しました。かつて、吾妻公民館のあったところです。

こちらは現役の落語がメイン。会場の利用時間のため出演人数に限りがあったにもかかわらず、筑波亭茶仏(ちやいむ)(09年入学)が「どうしてもオレの漫談で笑わせたい」と一歩も引かないので、苦肉の策で開演前にネタをやることに(いわゆる前説の状態)。十分に客席を沸かせ、よい状態で現役にバトンタッチできましたね。

広報としては地元情報サイトに落語会開催の情報を掲載しました。これが功を奏してか会場は満員。途中で席を増やすも立ち見が出るほど。これまでにない盛況を見せました。最後は歴代会長が登壇しての口上。場内全員で三本締めをし、大団円となりました。

懇親会は、落研の心のふるさと(?)居酒屋「灯軒」にて。北は秋田、西は大阪から会員が参集しました。世代

では上は79年入学(顧問より上)のてなもんや満狂、下は現役1年の色探亭三河ん(いろどりてい・みかん)まで、より幅広い世代が一堂に会しました。顧問がつつまれていてのを初めて見た人も多かったことでしょう。

今回の50周年事業は有志実行委員の推進力、筑笑会会員・現役の参加、そして何よりお客様の笑いがあって実現できました。

で、この文章。50周年に入るまでの前段が長すぎて本題が駆け足ですが、もはや後の祭りです。いやあ、何年か一度は訪れる「新入部員が入らない危機」を乗り越え、よくぞ50年続いたものです。今後とも会員諸氏が健康で笑って集まれる機会があることを祈念して、筆を置きます。(文中敬称略)

※筑笑会事務局からメールが届いてないOB・OGの方はこちらまでご連絡を… tsukuraku@yahoo.co.jp



追悼のつどい

令和六年十一月十六日
於 茗溪会館

「無に徹し生きられるだけ生きるだけ」この句は、一昨年10月に97歳でお亡くなりになられたご逝去会員宮本昇様のものです。ご遺族からご提供いただいた資料では「温和なお人柄とジョークで周囲を和ませる一方、産業や社会における人間性の回復に研究と実践の両面から常に取り組まれておりました」とありました。一世紀と言っても過言ではない長い人生の道のりで到達したその境地に、この「追悼のつどい」で、少しは寄り添うことができたのでしょうか。この一年間にご逝去された会員の方は261名で、比較的小若い筑波大学卒業の会員の方が12名含まれておりました。ご逝去会員様お一人お一人が歩まれた人生に尊厳を持って寄り添う時間を茗溪会「追悼のつどい」でご遺族様皆様と茗溪会本部から参加させていただいた多数の理事・委員とともに、共有できたことをここに報告いたします。

今年の「追悼のつどい」は令和6年11月16日(土)、茗溪会館において執り行われました。この「追悼のつどい」は設立3年目(明治18年)から始まり、茗溪会が先達に敬意を表しつつ大切に継続してきた行事です。11月半ばの曇天ではありましたが、例年より暖かい一日でした。

今回は14名のご逝去会員のご遺族24名のご臨席をいただきました。

「追悼のつどい」には、午前11時、「追悼式」が地下1階セレンニーホールにて、開式となりました。参列者一同の黙祷後、井口武雄理事長が「追悼の辞」を述べられました。ご参列が叶わなかった永田恭介筑波大学長のご挨拶は、猿渡康文大学執行役員が代読されました。その後、献花が行われ、ご逝去された会員の方々の遺影と共に、厳かな雰囲気の中、追悼式は終了しました。多くのご家族が、遺影の前で、お写真を撮影される光景が見られました。



井口理事長による追悼の辞



猿渡康文大学執行役員

ご臨席のご遺族の皆様は次の方々です。

- 故・尾崎 武(昭和20高師文五)
長女 大越なほみ様
長女夫 大越 喜文様
- 故・宮本 昇(昭和22高師臨教)
長女 宮本 直美様
- 故・平田博則(昭和25文理数学)
妻 平田 昭子様
長女 森田 洋子様
- 故・重田 實(昭和26高師理三)
長男 重田 治様
長男妻 重田みどり様
- 故・大勝信明(昭和26高師文四)
長男妻 大勝 淳子様
- 故・瀬藤康夫(昭和27高師理一)
長女 田島七々子様
次女 瀬藤 陽子様
- 故・伊藤駿二郎(昭和30教大農経)
妻 伊藤 順子様
- 故・松本益男(昭和29教大地鉱)
姪 齋藤 眞子様
- 故・島岡 丘(昭和30教大英)
妻 島岡美智恵様
長男 島岡 孝行様
- 故・赤羽喜平(昭和30教大農経)
長男 赤羽 博様
長男妻 赤羽すみ子様
- 故・石嶋静一(昭和33教大化)
妻 石嶋 恭子様
長男 石嶋 拓也様
孫 石嶋 麗様
- 故・三澤 治(昭和34教大農工)
長女 実山 暁子様
- 故・茅根榮子(昭和41教大体)
長男 茅根 悟様
- 故・鈴木敏博(昭和56筑大第一自然物理)
妻 鈴木久美子様
長男 鈴木 駿介様
長女 鈴木 友理様



今回は、筑波大学卒業のご逝去会員のご遺族もご臨席されました。ご遺族の方々のお言葉から、ご逝去された会員の皆様の母校を愛してやまない「茗溪愛」の心を受け取り、茗溪会「追悼のつどい」が東京高等師範学校時代から筑波大学へと脈々と繋がってきているということを改めて、感じた次第です。

追悼式の後、「茗溪の間」に場を移し、懇談会という運びとなりました。ご遺族が語られた故人の人となりをお伺いし、皆で偲ぶ時間は、茗溪の歴史を紐解く貴重な時間でもありました。



井口理事長

石嶋静一様ご遺族は、御伴侶である恭子様、御長男、お孫さんの3名でご参加でした。稀有な事ではありますが、御長男、お孫さんともに筑波大学ご卒業で三代同窓という「茗溪」一家。お孫さんの麗様は、高校時代、祖父静一様のご自宅から通学されていたそうで、最寄り駅まで祖父の自動車で送ってもらったことも度々あったという思い出話に、孫も同窓になったことをどれだけ喜ばれたことか想像に難くないと思つた次第です。



石嶋拓也 様

今回唯一の女性のご逝去会員は、茅根榮子様。一度は福島大学に入学し器械体操に力を発揮していましたが、東京オリンピック開催を目前に、どうしても東京教育大学に進みたいという思いを抑えきれず、試験を受け直し入学を果たしたということです。自己実現を果たすために努力を惜しまず突き進む姿勢に「茗溪女子」の真髄を感じました。オリンピックでは選手として参加は叶わなかったものの、ロシアやモントゴルの選手の子床運動でピアノ伴奏を勤めたそうです。



茅根 悟 様

茗溪会理事であった大勝信明様はこの「追悼のつどい」の形を20年前に現在のように整えた方で、ご遺族は御長男の御伴侶がご参加ということで、お

話からは素敵な嫁舅の関係を感じました。



大勝淳子 様

平田博則様ご遺族は御伴侶の昭子様、御長女の森田洋子様ご参加で、平田様は囲碁の界では長く第一人者として活躍という素晴らしい戦歴の方だったというお話でした。



森田洋子 様

101歳というセンチュナリアンの方から、まだまだお若い66歳の方までこの「追悼のつどい」でお送りさせていただいた「茗溪人」に思いを馳せる時間は、あまりにも短く、もつといういろいろなお話を伺いたいと思つた次第です。また、お話の中で、コロナの流行が様々に影響して健康を損なわれた方が多いことを伺い残念でなりません。

「この会場に故人と一緒に参加して

いるような気持ちになった」とあるご遺族の方がお話しされていたことが印象的でした。ともに故人を偲ぶことができたのだと少し心が温かくなりました。今回出席されたご逝去会員のご遺族の皆様ありがとうございました。大変貴重なお話も伺い、素晴らしい先輩に支えられて今の茗溪会があることを私達は改めて思い起こすことができました。新たな時代を見据えて歩む力をいただきます。

ご逝去された皆様のご冥福をお祈りいたします。

(茗溪会理事 小泉いづみ)



追悼式典後の集合写真撮影

中等教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた動向

元文部科学省教科書調査官 三橋 浩志

(福井県立大学教授
1988年第一学群自然学類卒業、
1990年大学院修士課程教育学研究科修了)

1. 話題のドラマ『御上先生』は令和の教室を描いている

TBSの日曜ドラマ『御上先生』は、俳優の松坂桃李さんが演じる文部科学省のエリート官僚が主役のドラマで、教育界に関連する様々なテーマが盛り込まれている。このドラマ、『金八先生』に代表される熱血教師が生徒と向き合い、クライマックスで感動の涙を流すという鉄板ストーリーの学園ドラマではない。主人公の御上先生が教壇から熱く語りかけるシーンは少なく、生徒が自らしつかりと考え、その考えをお互いに発表することで、教室全体で対話しながら課題を解決するシーンがほとんどである。松坂桃李さん演じる御上先生は、「生徒のために奔走するスーパー熱血教師以外は教師にあらず」という空気を作ってしまった」と同じTBS制作の『金八先生』を痛烈に批判している。

この『御上先生』で描かれている令和の教室は、アクティブラーニングが話題となった現行の学習指導要領(2017年・18年告示)で目指している「主体的・対話的な深い学び」を描いているともいえる。では、現行の学習指導要領が目指している「主体的・対話的で深い学び」は、どこまで実現しているのか。さらに、2024年12月25

日に、中央教育審議会が文部科学大臣から「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」(文科初第1855号)を受け、次期学習指導要領の改訂が本格的にスタートしたところである。

一方、高等学校の先生方の研究会でよく聞くのは「主体的・対話的で深い学びは初等教育(小学校)には適応するが、科学的・学問的な内容や概念の理解が必要な中等教育(中学校・高等学校)では、なかなか難しい」との声である。そこで、次期学習指導要領の改訂に向けて、今何が話題となっているのかを考えてみたい。特に、中等教育(中学校・高等学校)での方向性を考えてみたい。

2. 次期学習指導要領の改訂に向けた背景など

学習指導要領は、学校教育を取り巻く社会の変化、当該教科に関する学問の発達、さらに教育観の変化などを学習内容や学習方法などに反映させるために、概ね10年に1度程度の頻度で改訂されてきた。2024年12月25日の諮問からスタートした次期改訂作業は、現行の改訂と同様のスケジュールになると仮定すると、2026年12月の答申、2027年3月の告示が予想される。その後、2027年度から教科書の執筆・編集がスタートし、小学校は2028年度に教科書検定、2029年度に教科書採択、そして2030年4月から次期学習指導要領に対応した授業が順次、小学校から学校現場でスタートすると予想される。

次期改訂を前に、既に2021年に

中央教育審議会は「個別最適な学びと、協働的な学びの実現」をコンセプトにした『令和の日本型学校教育』の構築を目指して、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現(中教審第228号答申)を発表している。また、OECDのPIISA2022の結果が2023年12月に公開され、我が国の国際順位が向上したことを踏まえ、現行学習指導要領の方向性を大きく変更する必要がある、との評価がなされている。

さらに、今回の諮問直前に「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会・論点整理」が中央教育審議会から発表され、次期学習指導要領に向けた論点が既に示されている。そこでは、児童・生徒の「カリキュラム・オーバーロード」が課題として示され、さらに教員の「ワーク・オーバーロード」と合わせて、教育課程の実施に伴う過度の負担感が生じにくい仕組みづくりなどが課題として明示されている。

3. 次期改訂に向けた諮問文の概要

次期改訂に向けた諮問文には、今の教育界の課題や、今後の社会の動向を踏まえた教育課程の方向性が提起されている。そこで、諮問文で何を審議事項として示しているかを整理する。第1は「質の高い、深い学びを実現し、分かりやすい学習指導要領の在り方」である。「個別の知識の集積に止まらない、概念としての習得や深い意味理解、学ぶ意味、社会やキャリアとのつながりを意識した指導」を示し、「そうした授業改善に直結する学習指導要

領とするためにどのような方策が考えられるか」を検討事項として示している。

第2は「多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方」である。「各学校や教育委員会の創意工夫を最大限引き出し、子供一人一人の可能性が輝く柔軟な教育課程編成を促進する」ことを明示し、教科等の標準授業時数の柔軟性や学習内容の学年区分に係る弾力性が検討事項となっている。大綱としての学習指導要領の在り方そのものが議論の俎上になっている。そして、教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性につなげることを検討事項として示している。

第3に「各教科等やその目標・内容の在り方」である。特に英語教育に関して「手軽に質の高い翻訳も可能となる中、外国語を学ぶ意義をどのように考えるか」が諮問文に明示されるなど、コミュニケーション能力を重視した語学教育の方向性も問われている。また、社会科教育などに関連して「国家や社会の形成者として、主体的に社会参画するための教育の改善について」が検討事項に示されている。

第4に「教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策等」が検討事項として挙げられている。具体的には、教育課程の実施に伴う教師の負担感を如何に軽減させるかなどが重視されている。そして、「教科書の内容が充実し分量が増加した一方、網羅的に指導すべきとの考えが根強く存在し、負担や負担感を生んでいる」との指摘がある中で、新たな学

びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書等の在り方」が検討事項として示されている。教育内容が増えることは考えられず、内容の精選が進むと予想される。

4. 中等教育(中学校・高等学校)に関する諮問文との関係

次期学習指導要領に向けた議論の中で、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」などがキーワードとなっている。一方で、後期中等教育(高等学校)は、普通科と職業科に進路が分かれており、さらに、高校受験による学力による学校の分化(例…進学校、教育困難校など)が現実として発生している。さらに、最近では広域通信制高校への進学者が急増しており、全高校生は約30万人であるが、通信制高校の在学者は約30万人と、約1割が通信制高校で学んでいる。

一方、多様な生徒が同じ教室で学んでいることが顕在化している。例えば、中学校の各種統計を平均化すると、図1のようになる。このような多様な生徒を指導する教員は大変である。そして、従来の一斉授業のノウハウはなかなか通用しないケースも多く、「個別最適な学び」のなかで生徒一人一人の学びのモチベーションを高めることが重要になっている。

5. 教科書を巡る最近の動向

2025年2月14日に開かれた中央教育審議会の「デジタル教科書推進デジタル教科書推進ワーキンググループ」で、従来の紙の教科書に加えて、

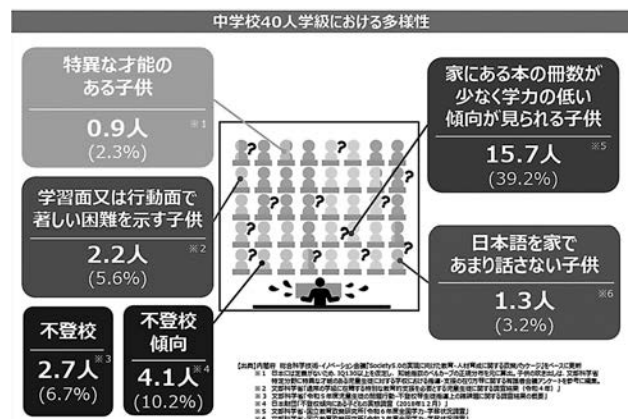


図1 諮問参考資料 P46(2024年12月25日)

今後はデジタル教科書も検定教科書として無償供与の対象とすべき、との方向性を示した「中間とりまとめ」が議論された。今後は、デジタル教科書における教科書検定の対象範囲と、資料としての副教材の範囲をどの様に切り分けるのか、その際の無償供与の在り方はどのようにすべきかなどの検討が行われることになった。今後の検討を注視したい。

一方、検定教科書制度は、著溪と深い関係のある制度である。東京教育大学文学部教授の家永三郎先生による「家永教科書裁判」は、初提訴から終結まで計32年を要した「最も長い民事訴訟」として、当時のギネス世界記録に認定された重要な裁判である。憲法で定めた「表現の自由」と、検定による「正確性の保証」や「学習指導要領を踏

まえた記述」、さらに「子ども達が主たる教材として教室で使うための最低限の教育的な配慮」の関係が問われた。「家永教科書裁判」など踏まえて、現在の教科書検定が行われており、教育行政における著溪の影響は令和にも脈々と残っている。

6. 中等教育教員における「親学問」の重要性と知性・教養を大切にする教育へ

高等学校の教員は、教員養成学部出身者よりも、大学で「親学問(言語学、歴史学、経済学、代数学、物理学、英文学など)」の専門学科を修めた「親学問」の専門家が中心であった。大学の先生にも引けを取らない学識を持ち、例えば、「市町村誌(史)」の執筆・編集には、高等学校の教員が多数関与していた。現在は、大学数が倍増していることもあり高等学校の教員にまで専門誌執筆のお声がかからないのかもしれない。また、部活動や生徒指導などで時間がなく、多様な生徒の対応で追われているため、「親学問」の研鑽に時間をかける先生が少なくなっているかもしれない。しかし、これからの学校教育は、知識の理解や技能の習得に加え、「生涯にわたって学ぶ力」を育成することが重要になる。

そのためには「教科書を学ぶ」だけではなく「教科書で学ぶ」ことが大切である。「親学問」を踏まえた「教科固有の見方・考え方」が重要であり、教科の内容(コンテンツ)に対する本質的な理解が教員に求められることになる。指導法や評価による資質(コンピテンシー)も重要であるが、教科固有

の概念をコンテンツとともに教員が理解することが、「個別最適な学び」をコーディネートする前提になる。教員の多忙感を如何に解消し、教員が「余白」をもつて教材と向き合うことで、その先にいる生徒の学びを引き出す授業実践が求められる。

一方で、学問や科学、知性や教養の重要性を否定する「反知性」「反教養」の傾向も高まっていることが懸念される。また「文章をきちんと読むことをしない」「国民が増えていることが、「社会の分断」を加速させているとの指摘もある。そして、「社会的な合理的配慮」を「ずるい」と感じる人も残念ながら増えている。世界的に「ポリコレ(ポリティカル・コレクトネス(Political Correctness))…政治的な正しさ」への拒否反応も増えている。「ポスト・トゥールース・真実の次の社会や政治(Post-truth Politics)」が米国などで拡大するなか、児童・生徒の理性や科学的な目を醸成することが今後の学校教育では益々重要になってくる。

例えば、「雪国は交通遅延で受検開始が1時間伸びた。その1時間の間に、雪国の受験生は1時間も長く参考書を読むことができたのはずい」といったSNSの書き込みがあった。「公正」をどの様に考えるのかは、教育基本法に示された教育の目的「人格の完成を目指すし、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」を改めて確認することになると思っている。

※本稿は著者の個人的な政策研究者としての見解であり、所属機関の公式見解ではありません。



Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？

山男の歌Ⅲ

2月28日(金)14時、祝い酒を手に、茗溪会館5階事務室から、4階「新泉の間」へと階段を下りていると、耳に馴染みのある楽曲が聞こえてきた。

虹の都 光の港 キネマの天地

『蒲田行進曲』だが、歌詞が違う。

雪の煙 タンネの樹氷

我等が天地

岩にザイル 壁の氷 蹴破るところ

ピッケルの閃きに 花と散る氷にも

青春燃ゆる 生命は躍る

我等が天地

どうやら、山岳部の『部歌』のようだ。

『蒲田行進曲』(1982年)、古くは、松竹キネマ映画『親父とその子』(1929年)の主題歌主題歌で、原曲があることを知った。

原曲は、ブロードウェイで公演されたオペレッタ「放浪の王者 The Vagabond King」劇中歌の一つ『放浪者の歌 Song of the Vagabonds』で、初演は1925年だから、一世紀前の楽曲である。作曲者は、チェコの音楽家ルドルフ・フリムル (Charles Rudolf Frliml/1879-1972)。

「新泉の間」の扉を開くと、元山岳部員の方々が『部歌』を歌い終え、乾杯に移るところであった。参加者は19名

で、遠く香川や山梨からも参加されていた。

唐沢氏の先輩格が3名いらした。永峯隆夫(S35地理)、蟻川治男(S38林学)、齊藤敬文(S38林学)の3氏で、永峯氏が、当日参加者の最年長であった。

お邪魔した折に、久々の会合ということで「おめでとうございます」とお声がけしたが、「なにがおめでたいんだか」という応答に、笑いがおきた。



秋山富雄氏のメール(2025/3/9)に、「東京教育大学山岳部OB会『終活の最後』を意識して企画しました。これでお仕舞いご理解ください」と、記されていた。

● 思いがけぬ反響

季刊誌『茗溪』秋号と正月号に連載した「山男の歌」が、思わぬ反響を得た。

記事を目にした山岳部OBが、茗溪会館で会合を開くことにしたという連絡をいただいた。

もう一つは、柴田徹氏(S46地鉦)が『偃松』をわざわざ届けてくれた。不在でお会いできず、電話にて、謝意をお伝えした。



B5版1100ページの大冊である。

この大冊が作られた目的は、「わが山岳部は消滅した。そしていずれかはOB会も消滅する。しかし、偃松五〇年史は残る」と「あとがき」に記す思いにある。

編集作業が始まったのは、昭和57(1982)年頃で、「集められた膨大な資料をすべてコピーし、手分けしてそれを読み取捨選択するという苦しくも楽しい作業」が、ほぼ2年間にわたって続けられ、その間、一、二か月に一回ほどの編集打合せが行われたということである。

「偃松五〇年史」は、大正12(1923)年の山岳会創設に始まり、昭和53(1978)年の「東京教育大学の廃学」とともに終わっている。

● 山岳会創設の頃

「東京高等師範学校山岳会創設趣意書」(大正12年度)がある。

- ・山嶽の雄大なる形に接し、高峻なる連峰を突破することにより、豪壮なる意気と勇往邁進の気象を養い合わせて広大なる度量を養うこと……
- ・登山旅行によりて見分を広め、合わせて学術的知識を獲得すること
- ・高雅なる趣味の涵養

大正12年、この年、加藤友三郎内閣が東京文理科大学設置案を含む予算案を第46帝議会通常会に再提出し、文理科大学の設立が貴衆両議院で可決した。

その4年前の大正8(1919)年師走、師範大学構想を掲げ、「昇格か、廃校か」の覚悟の下に、東京高師の学生教職員、そして、同窓が「母校昇格運動」を起こした。宣揚歌『桐の葉』はこの運動の中で作られた。

山岳会が創設されたのは、師範大学構想を掲げた母校昇格運動が、ようやく実を結びかけた年でもあった。

だが、その年の夏、加藤首相は急逝し、一週間後の9月初日(土)の昼時に、関東大震災が起きた。東京、神奈川を中心に罹災し、死者や行方不明者は夥しい数に及んだ。

東京高師の昇格事業は、6カ年の継続事業として実施されるはずであったが、震災による繰り延べで、当初より4年遅れた1927年度に、5カ年の継続事業として実施されることとなった。

勅令第37号(官立文理科大学官制)により、東京文理科大学が設立されたのは、元号も変わって昭和4(1929)年、世界恐慌の年でもあった。

●山岳会 草創期の活動

最初の登攀は、7月、2班に分かれて白馬と富士、そして蝦夷富士であった。

「登山にて準備すべき事」として、草鞋(三足あれば十分)、帽子(広いもの冷しく良ろし)、金剛杖(必要)……カンジキ(鉄製)が明記され、富士登山の項目には、「足にはゴム底に足袋か、または草鞋がよい」(同書P17)と記されていた。

●山岳会が山岳部に昇格する

山岳会から学友会登山部に昇格したのは昭和7年であった。ようやく高まつてきた学校登山の機運を逃さず、「中等学校の登山行事は、指導者、引率者はすべて教師である。一人でも多くの山の経験を持ち、山の広い知識を持った教師を学校に送らなければならない。それには……」と、学友会の幹事や各部主事に説いて回ったことが功を奏したようである。(長津一郎「山岳部ことはじめ」同書P3)

黎明期の学校登山を牽引した教育者に、同窓であり、信濃教育に大きな足跡を残した渡辺敏(1847-1930)がいる。

渡辺は、信仰登山の時代に、登山をスポーツとして捉え、学校登山を推進した。

このことは、記憶に留めたい。

●雪の煙 タンネの樹氷 我等が天地

4月1日 晴のち吹雪

「この日、東京では午前中は晴れていたが、午後2時頃猛烈な雷雨があり、あたりが夜のように暗くなった。谷川でも天神小屋の管理人の話では午前中は晴れていたが、正午過ぎより激しい吹雪となったという。当日、日本上空を大きな低気圧が過ぎ寒冷前線に伴う天気の変化は不幸な結果を招いた。……小屋の8畳には二組の布団が敷かれたままでサントリーの丸瓶が彼らの帰りを待っていた。小屋日誌には兩名がシンセン東尾根に行く旨が簡単に記されていた。」(永峯隆夫「事故発生当時の情況」『偃松』8号P3)

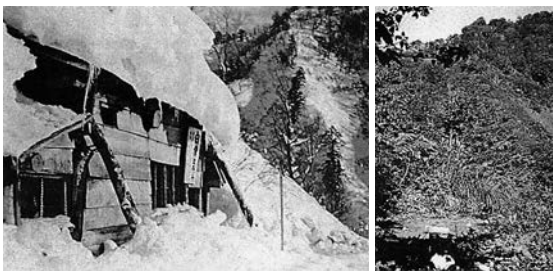
唐沢と同時に入部した榊泰明が松下信明(S39動物)と谷川岳シンセン尾根で遭難(1965/4/1)した。

唐沢が入学した年の正月に、隈部研二が白馬岳三合尾根で遭難(1962/1/2)し、入部後も、搜索は続いていた。

「山岳部の歴史は〈遭難の歴史〉でもあった。大きな事故を3回経験。計4名の岳友を失った」(唐沢孝一「東京教育大学山岳部、活動の記録(メモ)」)

隈部研二の追悼は、『白馬』の出版となり、松下信明と榊泰明の追悼は、『偃松』8号に特集された。

唐沢の卒業後、2年の日田村純一が、西穂間ノ岳で遭難(1967/12/28)した。『偃松』9号が追悼号となった。



『部歌』作詞者の新谷茂氏は、山岳部員番号1番、白樺ヒュッテ開設(昭和5年11月)の頃で、『蒲田行進曲』は大流行歌となっていたと想像できます。秋山富雄氏のメール(2025/3/9)より
写真：湯檜曾川奥白樺尾根末端に建設された東京高等師範学校山岳部白樺ヒュッテと跡地『偃松』p9所蔵)

『部歌』の原曲は、同じメロディーが繰り返され、フェードアウトしていく。
雪の煙 タンネの樹氷
我等が天地……
地吹雪が舞い、部員の姿が雪煙に霞む。急峻に歩を進めながら口ずさむ。

青春燃ゆる 生命は躍る
我等が天地……



大学のこれまでとこれから

（改革の30年が

もたらした功罪）

筑波大学名誉教授 山本 眞一



私は、大学など高等教育の諸事象を対象とする教育と研究を続けてきた。その私と筑波大学

との関わりは、単に名誉教授であるということ以上に深いものがある。第一に、1972年に東京大学法学部を卒業後、就職した文部省において、当時国会で審議されていたいわゆる筑波大学法案に2年近く関わった。新米の文部事務官ではあったが、それなりに政治の舞台裏を垣間見ることができた。第二に、1977年から2年間、筑波大学大学院経営・政策科学研究科に人事院から派遣され、社会人院生として学び、経済学修士の学位を得た。第三に、1992年に文部省を離れ筑波大学の助教授に採用され、教育学系所属・大学研究センター勤務の生活を14年間過ごした。その間に教授に昇任し、大学研究センター長として10年間、研究審議会や企画室などの場を通じて、

筑波大学全体の運営にも関わった。2006年に筑波大学から他大学に移り、現役引退後の今は名誉教授として筑波大学の今後を見守る立場にある。

〈新構想としての筑波大学〉

筑波大学は、前身である旧東京教育大学等の歴史を抜きに考えることはできないが、新構想大学として設立されたのは1973年であり、ほぼ私の仕事人生と重なっている。この50余年の歴史を見るだけでも、随分と変貌を遂げたものだとの感想を持つ。しかしそれは筑波大学だけではなく、我が国の大学やこれを含む高等教育の変貌と深い関係がある。本小稿は1990年代初頭に始まる現在の大学改革が30年の月日を経て、大学にどのような影響を及ぼしたか、今後の見通しを含めて述べるものである。

旧制東京大学が設立された明治10（1877）年から、戦後の学校教育法による大学制度（いわゆる新制）に代わるまでに、帝国大学7、官立大学11を含めて我が国に存在した大学は59校に過ぎず、これらは限られた国民のための学校であった。しかし戦後の高度経済成長の下で国民の教育需要は増大し、これに対応する大学の数も増え、早くも1960年には大学245校、短期大学280校を数えるに至った（現在はおよそ1,100校）。しかもその多くは私立であった。理念的には

戦前のエリート校の性格を有しながら、実態としては実用的な学問を教える学校という側面が目立つようになった。この理念と実態との乖離を解決する方策として提言されたのが、1963年および1971年の中央教育審議会のおよび1971年の中央教育審議会の答申であったが、学校を種別化するものであるとの厳しい批判も受けていた。実態としては大きく大衆化の方向に傾きつつも、理念としての学問の自由・大学の自治の考え方は強固であり、国による大学改革には大きな抵抗があったのである。

筑波大学は、東京教育大学の筑波研究所学園都市への移転を契機に、これまでの大学の枠組みを大幅に変えようとする試みであった。社会に開かれた大学、教育組織と研究組織の分離、部局自治に代えて全学としての意思決定の重視などはその一例である。教育についても、従来の学問分類にとらわれず、たとえば環境や政策科学など学際的分野を開拓しようとしたのも新構想の一つであった。ただ、筑波大学が発足した時点では、他大学で同様の試みをするものが少なく、極めてユニークではあったがその改革内容の広がりという点ではいささかの難があった。大学界全体としては、戦前も戦後も、学問の府というステレオタイプの大学像の中で、まだ安住していく余裕があったのであろう。

〈本格的大学改革の始まり〉

しかしながら1990年代に入って、高等教育状況は大きく変わってきた。東西冷戦の終結、バブル経済の崩壊など世界規模の政治・経済環境の変化とともに、大学の果たすべき役割に期待が集まるとともに、世の中が大学を見る眼は厳しさを増すようになった。折からの行財政改革の活発化の中で、大学の教育その他の活動に有用性を求める声が大きくなってきたのである。これらに加えて、90年代から始まる18歳人口の長期的減少が、この人口に入学者の大半を依存する大学が深刻な影響を与えるであろうことが、関係者の脳裏によぎり始めた。

1991年の大学審議会答申は、大学設置基準の大綱化と自己点検・評価システムの導入を提言した。答申で「自己」と表現されたのは、自主自律であるべき大学への配慮が当時であったのであろう。ただ、この頃から世論や政策当局の動向に敏感になってきた各大学、とりわけ国立大学で自己点検・評価書の作成・公表が相次いだことで、次第に雰囲気が変わっていった。やがて他者からの評価に慣れてきた大学関係者は、2004年の認証評価制度を当然のこととして受け入れるようになるのである。

現在につながる大学改革のもう一つの柱は、大学のガバナンス改革である。

戦前は一部の大学の特権として運用されてきた大学の自治は、日本国憲法が保証する学問の自由とつながって、大学制度の中に深く取り込まれていた。大学の重要事項を審議するための教授会の必置（学校教育法）や、国公立大学の教員人事に教授会の承認を必要とするなど（教育公務員特例法）がその例である。2004年の国立大学法人法の施行後は、国立大学に法人格を与えるなど自主自律の根拠をより強固にした半面、中期目標・中期計画策定などを通じた国（文部科学大臣）の監督強化、法人内部における理事長（学長）のリーダーシップ強化など、従来の慣行とは異なる動きが多々見られるようになった。教員が非公務員化された関係で、教育公務員特例法の適用範囲外となり、国立大学教員の人事や管理運営にも大きな変化をもたらすようになった。

＜評価に基づく資源配分も＞

評価に基づく資源（予算や人員）配分も、近年の大学改革の中で特徴的な事象である。もともと国立大学に配分される予算は、国立学校特別会計制度の下で、定員や講座・教育組織などを単位とする一律配分的性格が強く、また私学助成においても同様であったが、政府の財政難解決と卓越した大学の育成等の政策意図があつて、公開性の高い競争的資金として配分されるものが増えてきた。今世紀初頭に始まる21世

紀COEプログラムや、特色ある大学教育支援プログラム（GP）などはその初期の事例であるが、その後、大学の整備充実、私学経営の改善、卓越した研究拠点の支援など、高等教育や科学技術政策の手段として多用されるようになってきている。現在におけるその究極の姿は、いわゆる十兆円ファンドによる「国際卓越研究大学」であろうが、目標達成など大学が国や社会に対して負わねばならない義務が、大学の自主自律を損なうことのないような配慮が望まれる。

21世紀も四半世紀を經過し、大学の姿は確かに変わってきた。今更もとに戻れとは言わないが、大学が大学たる所以は、自主自律の共同体であることであり、これによって社会に貢献するのが大学本来の責務であろうかと思う。国や産業界からの資源を少しでも多く得ようとして、それらとの距離を近くとり過ぎると、かえって大学としての本質を見失ってしまう。他方で、大多数の大学は現在、18歳人口の減少に起因する学生不足（定員割れ）に苦しむようになってきている。しかも事態はより深刻化しつつある。かつて中教審は大学の種別化を提言したが、今こそ大学の多様化を直視し、その中で研究力の強化だけではなく、専門・職業教育的機能をどのように再設計すべきか、検討すべき時期がやってきているのではないだろうか。

桐の葉のつどい 同期入学、または同好のみなさんの集まりを紹介したものです。

◆令和6年度 茗体会総会・懇親会

と き 令和6年11月17日(日)

ところ グレースバリ新宿3階「アロナ」

「茗体会」は、東京高等師範学校体育科から東京教育大学体育学部の卒業生、令和2年度からは筑波大学体育専門学群の卒業生も加わった「茗溪体育の高齢者同窓会」です。概ね65歳以上の卒業生が参加している任意の親睦団体です。コロナ禍を経て、令和5年度に初めて筑波大学卒業生と合同の総会・懇親会を実施、今回は接続後2回目の総会・懇親会でした。「筑波大学卒業生の進路について」と題した講演を野村良和副会長（筑波大学名誉教授）にお願いしました。参加者は31名でした。今回は、会場確保や費用等の関係で馴染みのある茗溪会館を離れ、一般の施設を利用しましたが、遠くは仙台からも大先輩が参加され、みんなで楽しい時間を過ごしました。（文責：柳 久美子）



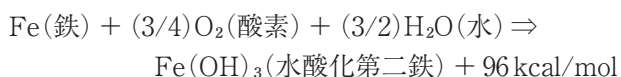
元素講話こぼれ話 第八話： 8番目の元素酸素に関して

大嶋 建一

8番目の元素である酸素は周期表の16族に属する非金属であり、単体では無色無臭で、通常2原子分子の気体(O₂)として存在する。酸素の質量比は大気では～23%を占める大切な元素であり、地殻、水、人体での重量比は～46%、～86%、～65%を占めている。さらに、宇宙では水素、ヘリウムに次いで3番目に多い。

酸素は1772年にはスウェーデンのシェーレが、1774年には英国のプリーストリーが独自に発見した。1779年にはフランスのラボアジエが呼吸と燃焼における酸素の役割を明らかにしている。元素名(oxygen)は「全ての酸には酸素が含まれている」という考えから、ギリシャ語の「酸(oxys)」と「生じる(gennao)」を組み合わせてつけられた。しかし、のちにこの考えは誤解であることが判明している。日本語名は江戸時代の蘭学者で化学者の宇田川榕菴が命名した。なお、宇田川榕菴については「第二話：元素に関与した日本人」〈「茗溪」1118号P16〉の中で紹介した。

酸素の電子配置は1S²2S²2P⁴で、2P軌道の電子を2個獲得してこの軌道を埋めようとする性質を持つ。そのために、他の原子を強く引き付けるために、非常に反応性が強く、ほかのほとんどの元素と反応して多くの酸化物(例えば、SiO₂、MgO、FeO等)を作る。我々の身近な生活では鉄の酸化を利用した使いすてカイロ、脱酸素剤がある。ここで、カイロの仕組みを紹介する。その材料は鉄粉、水、バーミキュライト、活性炭、木粉、塩類、それらを包む穴の開いた不織布、さらには、空気の侵入を防ぐ特殊なフィルム製の外袋から成る。使用の際、外袋を破るとカイロの酸化は以下の反応化学式：



となり、発熱する。なお、活性炭とバーミキュライトは急激な反応の抑制、塩分は反応速度を制御する役割を持つ。なお、カイロの外袋には最高温度、平均温度、持続時間の記述があるので、使用前に読んでほしい。また、酸素は水素と結合して水(H₂O)を構成する。酸素は物質を燃焼させるので、生物の体内では身体に取り入れた食物を熱エネルギーに変える働きがあり、生命活動に欠かせない。一方、体内に取り入れられた酸

素の一部は活性酸素に変化して細胞を酸化させ、老化やガンなどを引き起こす要因になる。

ところで、成層圏(約10～50 km)に達した酸素(O₂)は、紫外線で分解されて、周りの酸素と結合してオゾン(O₃)になる。大気中のオゾンは90%が成層圏に存在していて、オゾンが多い層はオゾン層と呼ばれ、人間や動植物にとって紫外線を吸収する役割を持つ。しかし、冷蔵庫やエアコンの冷媒に利用されている人工物質のフロンなどはオゾン層を全地球規模で破壊し、この現象をオゾンホールと呼ぶ。オゾン層の破壊は紫外線が人体に与える影響として皮膚ガンや白内障などの病気の発症、免疫機能の低下がある。また、動植物の成長を妨げたり、プラスチックの劣化などの影響もある。20世紀後半には南極のオゾンホールの面積が急激に増加したため、1985年3月に国連環境計画(UNEP)を中心として「オゾン層の保護のためのウィーン条約」が定められた。さらに、1987年に採択された「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」は具体的な規制内容が定められた。日本では上記の条約、議定書に加えて、1988年に「オゾン層保護法」が制定された。その結果、現在までに冷蔵庫やエアコンなどの冷媒に用いられている特定フロン(CFC、HCFC)⇒代替フロン(HFC)⇒グリーン冷媒(CO₂、NH₃、HFO等)への転換がなされている。これらの対策の結果、1980年代のオゾン層の状況に戻るのには2060年代との予測がなされている。

(参考：(株)エバーグリーン・マーケティング＆
リテイリング HP)



茗溪・東西南北

首都圏地域

組織情報交換会

首都圏地域（東京、茨城、埼玉、千葉、神奈川の1都4県）の情報交換会が、2025年1月11日（土）に茗溪会館2階「茗溪の間」で開催されました。首都圏地域は、居住地域と職場地域が混在することが多く、相互に交流しやすい地域環境にあるだけでなく、その会員数は茗溪会全会員の約半数を占めます。

今回の情報交換会参加者から「多くの同窓生と有意義な情報交換が出来た」、「他の地域組織の意欲的な取り組みが分かった」という感想が寄せられました。また、情報交換会終盤の神奈川茗溪会の大石進氏（昭56筑体）の口上から宣揚歌「桐の葉」合唱までの流れは多くの参加者の記憶に残りました。

「時は、大正8年、大学昇格運動の風、吹き荒れる中、東京高師、未だ昇格せず…。業を煮やした教職員、学生らは昇格運動に奔走、嘉納治五郎校長、自ら先頭に立ち、学生らを鼓舞したのであった。全学生が熱狂していた寄宿舎の一室で、本科二年、大和資雄（やまとやすお）、新聞紙に毛筆で、桐の葉は木に朽ちんより…」と、二節を一気に書き上げた。歌詞には、日本の教育を担う高等師範学校が尊重されないの



あれば、廃校も辞さないという強い思いが込められているのである。」

口上を発する中で、次第に火の玉となっていく大石進氏のリードで宣揚歌「桐の葉」を参加者全員で大合唱し、誇り高き茗溪の絆を全身で体感しました。今後、首都圏地域は会員が旧交を温め交流の輪を広げる場として、結束して課題を共有し解決策を創造する場の一つとなっていくでしょう。

（茗溪会事務局）

令和6年度 岐阜茗溪会

総会・懇親会

令和7年2月8日（土）岐阜市のグランヴェール岐山において岐阜茗溪会の総会及び懇親会を開催しました。大雪の影響で急遽参加できなくなった方も何人かいましたが、昭和48年卒から平成29年卒までの25人が出席しました。総会に続き、茗溪会本部からお越しいただいた矢野正人事務局長より「桐の葉のこと 伝承と創造」と題して、母校の歴史や伝統、宣揚歌「桐の葉」の誕生についてご講演いただきました。出席者の多くが筑波大卒（東京教育大卒は3人）となる中で知らないことも



多く、大変有意義な時間となりました。続いて全員の方と話をしようといわれた懇親会は、大変和やかで楽しいものになりました。最近は何を重ねることに出席者も増え、親睦を深めています。最後の「桐の葉」斉唱で出席者一同、心一つにして、笑顔いっぱい会を閉じました。

（岐阜茗溪会会長 増田 智至）

令和6年度 大分県茗溪会

総会・懇親会

令和7年2月22日に開催しました。
（大分県茗溪会 押田 武）



追 悼 録 (敬称略)

阿部 正勝 S24文四	宮城	R6.11.22	長女	毛塚みちる
森本 義信 S24理三	兵庫	R6.12.28	長男	森本 純平
杉村 暢一 S25大哲	高知	R7. 2. 7	長男	杉村 昭彦
渡邊 寿夫 S26大数	福岡	R7. 2.12	妻	渡邊 幸子
小林 英男 S26理二	東京	R6. 2.17	長男	小林 真
森 吉人 S27文二	北海道	R6.11. 4	妻	森 綾子
中山 雄一 S28教大化	東京	R7. 1. 8	長男	中山 一郎
小泉 悦彦 S29教大教	栃木	R6.12. 1	妻	小泉 邦子
小野寺 茂 S29教大農	宮城	R4. 8.26	妻	小野寺すみ
白金恭之助 S29教大物	千葉	R7. 3. 1	長男	白金 正之
飯島 敏 S30教大教	神奈川	R7. 1.10	長男	飯島 久雄
真保 亨 S30教大芸	埼玉	R6. 3.31	妻	真保 和子
嘉数 忠夫 S30教大数	埼玉	R7. 1.28	二男	嘉数 勇二
田崎彰一郎 S30教大地	東京	R6. 8.12	妻	田崎 保子
中村 賢一 S30教大農化	東京	R4. 6.19	妻	中村 光子
岡村 道雄 S30教大西史	埼玉	R6. 9.13	妻	岡村 和子
櫻井 淑子 S31教大絵	東京	R6.12.27	夫	櫻井 寛
大石 倍二 S31教大彫	静岡	R6. 2. 9	妻	大石 琳江
後藤 篤治 S31教大地鉦	鳥取	R6. 2.26	長男	後藤 俊輔
坂本 保 S31教大体	長野	R6.12. 3	妻	坂本 玲子
水上 和夫 S31教大健	山梨	R5. 6.24	二男	水上 泰彦
小林 宏 S32教大哲	東京	R7. 1.22	長男	小林 隆
大下 専一 S32教大西史	静岡	R6.11. 9	妻	大下 康子
杉山 浩一 S32教大教	東京	R6.12. 8	妻	杉山 錦子
高野 昌司 S32教大総農	栃木	R6.10.17	長男	高野 賢司

逝去会員氏名・卒年科・地域・ 逝去年月日・続き柄・遺族氏名

豊田 敏明 S32教大健	神奈川	R6. 8.10	長男	豊田 恵一
田辺重右衛門 S33教大國	東京	R6. 6. 3	妻	田辺 政子
齋藤 顯 S33教大教	東京	R6. 1.24	妻	齋藤 みち
草薙 進郎 S33教大特教	茨城	R5. 7.25	妻	草薙 玲子
斎藤 瑛 S33教大体	千葉	R6.11. 8	妻	斎藤 通子
片岡 博 S34教大東史	茨城	R6.11. 3	妻	片岡ちよの
岩崎 亮雄 S34教大総農	群馬	R6.12.27	長男	岩崎淳一郎
松本 久志 S34教大工芸	神奈川	R7. 2.23	二男	松本 岳志
矢澤 明 S35教大東史	埼玉	R6.10.17	長男	矢澤 貴史
杉山 元 S35教大動	埼玉	R6.12.22	妻	杉山紀代子
岡野 正則 S35教大地	神奈川	R7. 3.20	長男	岡野 正之
長尾 三郎 S36教大総農	東京	R7. 2. 7	長女	長尾 尚子
山本 勇 S38教大國	北海道	R6. 9. 5	妻	山本 和代
松浦 育代 S38教大体	大阪	R7. 1.10	二女	松浦嘉江子
柏原 哲 S39教大西史	神奈川	R6. 4. 5	妻	柏原眞智子
松永 恵子 S39教大体	長崎	R6.11.13	夫	松永 淳一
岩脇 國夫 S40教大國	神奈川	R6.11. 4	妻	岩脇 正代
鷹野 誠三 S42教大農経	埼玉	R5. 1.28	長女	西脇 純子
平賀 一紘 S44教大物	千葉	R6.12.16	妻	平賀 泰子
樋口 義一 S45教大応物	埼玉	R6. 8. 7	妻	樋口たか子
塩田 薫 S45教大体	大阪	R7. 1. 6	妻	塩田久美子
泉田 恵市 S46教大武	大阪	R6. 4. 6	妻	泉田英理子
細谷 俊一 S47教大生化工	神奈川	R7. 3.17	妻	細谷 英子
石崎 英司 S49院修物	神奈川	R4. 2.26	妻	石崎真知子
竹田 幸夫 S56筑修体	神奈川	R6. 2.16	妻	竹田 千里

お 願 い

会員様のご逝去の連絡先について

◆茗溪会大塚事務所

メール：info@meikei.or.jp

電話：03-3941-0136

(火曜日、木曜日、金曜日

10時～16時)

※メールでのご連絡について

○会員様のお名前(漢字・フリガナ)

○ご逝去年月日(享年)

○会員番号が判ればご記載ください。

○ご連絡者のお名前、及び日昼に連絡のとれる電話番号を必ずご記載ください。

○茗溪会よりお問い合わせさせていただきますが、よろしく願いいたします。

(茗溪会事務局)



◆体育学部46入学 体育・健康合同同期会

と き 令和6年11月21日(木)

ところ グレースバリ新宿6階

令和6年11月21日(木)、東京教育大学体育学部46年入学の体育学科と健康教育学科は合同で同期会を実施しました。全国各地から44名の仲間が集まり、旧交を温め、楽しい時間を過ごしました。体育学科は、60歳を機に同期会の計画をすすめ、コロナ前に2回実施していましたが、コロナ禍で中断、久しぶりの同期会でした。健康教育学科は卒業後から継続して実施してきましたが、やはりコロナ禍で中断していました。両学科は部活動で共に汗を流した仲間もいるので、今回は合同で計画しました。卒業以来という人もいましたが、50年近い歳月もあったという間にタイムスリップし、懐かしい話題やそれぞれの近況話に花が咲きました。体育学科では、同期会は“安否確認”と位置づけ、今後は毎年11月の第3木曜日に実施することを決めました。予定をあわせて振るって参加してもらえればと思っています。(文責：柳 久美子)



◆筑波大学バレーボール部OBOG会

と き 令和7年3月2日(日)

ところ “嘉ノ雅” 茗溪館

筑波大学女子バレーボール部は12月に行われた『2024全日本インカレ』(第71回秩父宮妃賜杯 全日本バレーボール大学女子選手権大会)で優勝し、2連覇を達成しました。その偉業を祝し、OBOG会では昨年度に引き続き祝賀会を実施しました。祝賀会には、SVリーグの関係者をはじめ、スポーツ用品企業や雑誌『月刊バレーボール』の関係者などの来賓の他、選手の保護者にもご臨席をいただき、多数のOBOGとともに優勝を称え合いました。来賓挨拶では、クインシーズ刈谷の荒木絵里香様(ロンドンオリンピック銅メダリスト)から祝辞をいただきました。また、ミズノ株式会社からは2連覇のペナントを授与していただきました。和やかで楽しい2時間、あっという間に過ぎてしまいました。

参加の皆様からは3連覇に向けての激励の声も聞かれ、選手及び監督、スタッフは、決意を新たにしました。OBOG会でもできる限りの支援をしていきたいと思っています。(文責：OBOG会会長 並木清三)



相川 良雄	太田 初美	小原 有策	竹内 雅也	土方 多美枝
阿江 通良	大谷 早百合	今 春敏	立石 智昭	廣瀬 玲子
青木 俊輔	大塚 雄一	斎藤 興哉	立石 秀樹	福島 敬
青山 和義	大辻 明	西東 秋男	立山 隆治	藤家 昭和
赤岡 正毅	大沼 哲也	三枝 志朗	田中 正夫	藤田 弘美
赤川 彰彦	岡本 高宏	桜井 治	田中 守	藤村 優香理
穂吉 修	小川 英行	笹川 和輝	田中 麗之助	藤原 保明
麻田 久喜	小栗 洋	佐藤 朱美	田淵 英樹	松下 実千子
安部 秀三	小内 稔	佐藤 智美	中条 政紀	松永 恵
新井 保幸	小俣 宏記	佐藤 豊実	蝶野 博紀	松永 泰典
有常 洋一郎	織邊 剛	佐藤 宣践	土屋 新	水野 民男
飯島 宏	加藤 澤男	佐藤 勇二	都築 功	溝口 繁美
五十嵐 睦夫	加藤 志乃婦	山海 嘉之	都竹 淳也	三田 浩司
石川 尚子	加藤 信哉	三條 和男	堤 誠一	宮川 俊平
石橋 泰	加藤 俊宏	茂野 隆一	圓谷 浩之	宮本 義久
石原 みち子	加藤 隆一	渋谷 俊浩	手塚 章	村井 正
石山 誠一	金子 麻理子	島谷 弘幸	寺尾 壽幸	村山 勤治
出浦 淑枝	金子 暁	清水 嘉彦	寺崎 順	茂木 進一
伊藤 恭滋	金子 十美代	庄司 潤一郎	遠山 正暁	森川 智恵
伊藤 幸子	河原 武男	助川 泉	中川 雅史	YEM Yibol
伊藤 聡	川又 章	鈴木 章方	永窪 啓治	安永 真澄子
伊藤 典明	川本 太郎	鈴木 奈保子	永嶋 達夫	谷中 隆
伊藤 義博	岸本 弘子	鈴木 泰全	永田 昭男	山内 研二
伊藤 涼子	日下部 公昭	隅木 信利	中野 憲二	山口 香織
猪又 英夫	楳沢 朋美	炭本 哲也	中村 伸夫	山口 春久
井本 正子	倉橋 裕紀子	曾我 烈人	中山 芳典	山口 松太郎
伊与田 万知	小畔 東	高井 和久	夏目 幸一郎	吉江 森男
岩崎 信夫	小池 一郎	高岡 正幸	奈良 昭男	吉田 正之
岩崎 正子	古賀 正義	高田 雅博	西村 志郎	脇田 健治
岩本 毅	小成 幸男	高津 浩彰	沼田 治	和久田 佳代
上田 晃嗣	小林 明子	高野 だいわ	野口 雅之	渡辺 幸次
占部 和章	小林 慧歩	高橋 縁	箱崎 二三彦	(五十音順・敬称略)
江田 昌佑	小林 仁一	瀧 弘之	原田 隆康	
大倉 浩	小林 正貴	武井 治郎	原田 満彦	

『茗溪フェロー』ご協力をお願い

茗溪会が新法人としてさらに発展・進化していくために、東京教育大学等前身諸学校から筑波大学にわたる多様な世代を結び、教育界だけでなく広く実業界に活躍する卒業生との地域・職域をこえた連携を強化することを目的として、会費完納会員を対象として創設された「茗溪フェロー」は、これまでに多数の方からのご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

完納会員の皆さまには、35年間にわたり茗溪会へのご支援をいただき、これまで本会を支えていただきましたことは、誠に感謝に堪えません。

茗溪会は筑波大学や在学生、さらに新しい卒業生に、一層の支援をすることは勿論ですが、本会の老・壮・青の力を集めて大きく発展することを期しています。そのためにも、皆さまには本年度もご協力をお願い申し上げます。

「茗溪フェロー」の募集要項

既に会費を完納した会員の皆さまに呼びかけて「茗溪フェロー」として、皆さまからの寄付をしていただき、今後の茗溪会の運営に寄与していただくことを目的といたします。

- 1 寄付金 1口 2,000円／年間
- 2 支払い方法 口数の選択 1口以上
郵便局窓口またはATMから送金してください。
会員番号は必ず記入してください。
(お送りした封筒の宛名に記載してある8桁の番号)
クレジットカードでのお支払いもできます。詳細は事務局までお問い合わせください。
- 3 季刊誌『茗溪』誌上にお名前を掲載いたします。
- 4 納入口数に応じて、記念品を贈呈しております。

筑波大学は今

最先端共同HPC基盤施設(JCA EDC)の新スーパーコンピュータシステムMiyabi(みやび)の運用開始披露式典を開催

1月15日、筑波大学計算科学研究センター(センター長:朴泰祐)と東京大学情報基盤センター(センター長:千葉滋)が共同運営する「最先端共同HPC基盤施設」(JCAHPC: Joint Center for Advanced High Performance Computing)施設長:朴泰祐)において、新スーパーコンピュータシステムMiyabiの運用開始披露式典が、システムの設置場所である東京大学柏キャンパスで開催されました。式典には、文部科学省研究振興局参事官 国分政秀氏を始め多くの来賓、東京大学田浦健次朗副学長、筑波大学 重田育照副学長、及び開発に携わった多くの関係者が列席し、最新スーパーコンピュータシステムMiyabiの運用開始を祝いました。

朴施設長は式辞で、「筑波大学と東京大学の(間に位置する)柏キャンパスという)地の利と人の和を活かして、学術目的で国内2位のスーパーコンピュータシステムMiyabiを導入することができた。」と二大学の強い連携を語りました。

Miyabiは2025年1月14日より正式運用を開始し、2025年4月より

り文部科学省HPCIプログラムや両大学の各種共同利用・共同研究プログラムに供される予定です。



Global Village New Year Party 2025を開催

1月8日、本学グローバルヴィレッジコミュニティステーションにおいて、Global Village New Year Party 2025を開催し、約100名のグローバルヴィレッジ及び短期・シヨートステイハウスの入居者が参加しました。

New Year Partyは、グローバルヴィレッジの入居者間の交流を促進することを目的として、本学及び管理運営業務委託事業者である大和リースグループとの共催により2018年から開催しています。5回目の開催となる今回は「ときめき太鼓塾」による活気あふれる和太鼓の演奏やもちつき体験、各種ゲームを楽しむ、本学福利厚生事業者による軽食(ハラル食)をとりな

がら親交を深めました。
参加者からは、「初めて餅つきを体験し、とても楽しかった」、「学生宿舎に住んでいる友人と話す良い機会だった」との声が聴け、楽しく有意義なひとときとなりました。



朝永振一郎記念第19回「科学の芽」賞表彰式・発表会開催

12月21日、本学大会館において、朝永振一郎記念第19回「科学の芽」賞の表彰式・発表会を開催しました。

「科学の芽」賞は、筑波大学にゆかりのあるノーベル物理学賞受賞者の朝永振一郎博士の功績を称え、それを後続の若い世代に伝えていくとともに、小・中・高校生を対象に自然や科学への関心と芽を育てることを目的としたコンクールです。

今回、国内の学校27校及び海外4か国7校(アメリカ、韓国、中国、ハンガリー)の日本人学校等から小・中・高校生部門合わせて2,377件の応募

募がありました。その中から小学生部門10件、中学生部門8件、高校生部門2件の合計20件の作品を極めて優秀と認め、「科学の芽」賞を授与しました。
表彰式・発表会には、受賞者22名と付添者40名が出席されました。発表会では、部門毎に受賞者による発表と質疑応答が行われました。受賞者達は、スクリーンに作品の概要を投影しながら研究の成果を報告し、会場の参加者からの質問に、身振り手振りを交えて回答をしていました。その後、「科学の芽」賞受賞OB・OGによるミニ講演会を開催しました。講演では、自身の「科学の芽」賞との関わりに触れながら、現在取り組んでいる仕事や研究についてのお話などがあり、受賞者は真剣に耳を傾けていました。その後は、受賞者を囲んで、副学長・系長、講演者のOB・OG、実行委員会委員が参加した懇談会が行われ、和やかに楽しい時間を過ごしました。



茗溪学園だより

筑波大学後援・茗溪学園 個人課題研究発表会開催される

令和6年度個人課題研究発表会が、3月6日に本校を会場に開催されました。

この個人課題研究は、創立以来の必修科目で、本校教育を特徴づける活動の一つです。また、筑波大学の後援を得て、優秀研究の発表会を一般公開して開催するようになってから17回を数えるようになりました。SSHの指定を受けてからは、成果報告会も兼ねて行っています。

発表は、12月実施の全員発表会を経て選ばれた優秀40研究(左表)です。4名ずつ10会場に分け、15分間の発表の後、質疑と座長として参加してください。筑波大学の先生から講評をいただきます。

研究分野	発表数	テーマ(参考として1例記載)
生物・化学	12研究	タイハーブが持つアニキサス死滅効果 など
医療	2研究	軽度認知症者に対するリハビリ など
物理	2研究	金属とセラミックスの打音の聞き分け など
スポーツ科学	4研究	ラグビー選手へのヨガの影響 など
人文科学	3研究	戦後日本語における口語の変遷と背景 など
社会科学	14研究	人工知能が司法業務を担うための社会秩序に関する考察 など
情報・生活科学	3研究	LINEでの投票システムの作成 など

会場では、聴くのは、次年度の研究者である高校生1年生です。既に研究テーマは決めているので、関連する先輩の研究を聞こうと、会場移動をします。この後輩たちのために、発表は2回行われます。

第44回卒業式挙行政

令和6年度第44回茗溪学園高校卒業式が、3月1日挙行政されました。この44回生は平成31年に中学に入学しました。直後に令和へと元号が変わりますが、コロナ禍の中での中学生生活となりました。本校が開校以来続けてきたフィールドワークなど体験的行事が中止になったり、部活動では試合や大会の規模が縮小されるなど、何かと我慢を強いられる生活でした。

高校生になってやっと制限が解除され、堰を切ったように、様々なことに挑戦する姿が見られました。部活動の活躍にも目を見張るものがありました。それぞれが自らの生活を充実させ、265名(内IB課程30名)が巣立っていきました。



卒業生総数は、1万298名となりました。

令和7年度生徒数は千六百人超

令和7年度入学者は、中学新入生が265名、高校新入生が88名(内留学生18名、



座長の筑波大先生から講評をいただく(写真下)

内進生合わせて高校1年は312名です。全校生徒数は、千六百名を超え過去最高数になりました。

SSH海外(台湾)研修

海外研修プログラムとして1月4〜8日の日程で台湾を研修地とし、調査研究活動をしてきました。参加者は7名(高一1名、高二5名、高三1名)。

日本列島と地質構造的環境が似ている台湾において、地層や断層の観察、英語を用いた現地研修、研究所での講義受講、高校生同士の交流などを研修目的としました。

ラドン検出器を使つての鉱石分析、地震被災地の見学(写真・九份二山国家地震記念地)、姉妹校となつている台中女子高級中学と国立嘉義高級中学の生徒達との研究発表交流、国立台湾成功大学では量子コンピュータの講義を受講しました。



国際交流① アメリカ・ボストン研修

3月7日〜17日、30名の生徒が参加して、姉妹校のミルトンアカデミー校との交流を含む海外研修が行われました。



ハーバード大学、マサチューセッツ工科大学(MIT)、ボストン美術館、企業訪問(卒業生勤務)なども組み込まれ、MITで

は本校卒業生(MIT講師)の講義もありました。ミルトンアカデミー校では、ホームステイ(6泊)でホストファミリーと過ごし、バディ生徒と一緒に授業体験をしました(写真は同校内で寛いで談笑する様子)。

国際交流② 短期交換留学 SOSEP

SOSEP(Study Overseas Student Exchange Program)とは、創立30周年を機にグローバル教育を活性化するために始めた短期交換留学(期間は2週間)のことです。今年で15年になります。イギリス、オーストラリア、ニュージーランドの高校と相互派遣を行っています。

1月にイギリスのクライスト・カレッジから4名が来校しました。バディ生徒の家にホームステイし、通学体験も含め共に学校生活を送りました。日本文化に触れる様々なプログラムに参加しました。



剣道の授業を体験

部活動報告(試合結果など)

◎高校ラグビー部：第26回全国選抜大会(16回目)3月、熊谷ラグビー場

◎美術部：第69回全日本学生美術展・団体賞受賞35回目/個人賞・高2女子2名審査員推奨(6作品のみ選ばれる内の2作品)・推奨4名・特選6名・佳作14名

◎第16回茨城県英語パーラメンタリーディベート大会：6位入賞・高2男子3人チーム

【科学研究発表】◎全国子ども防災作文コンクール：「日本防災士会会長賞」受賞・高2女子(個人課題研究)

令和6年秋の叙勲(追記・敬称略)

瑞宝中綬章

青山 彰

52教大独

(東京)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

広 報

訂 正

前号(令和7年正月号)で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P1「グラビア」写真キャプション②

(正) 宣揚歌

(誤) 宣揚3歌

▽令和7年度 茗溪会事務局 人 員 体 制

事務局長

矢野 正人(茗溪会副理事長)

大塚事務所

西村宗一郎(所長)

會田 芳光(財政・局長代理)

花上 克宏

堤 誠一

栗原 茂夫

小山 恵子

前田 三郎

筑波事務所

野崎 芳恵(所長)

瀧下 芳彦(局長代理)

宮本 靖子

▽「筑波大学新聞」4月号を同封します

「筑波大学新聞」4月号を今年も同封致します。筑波大学新聞には筑波大学の様子を詳しく掲載されており、ご活用ください。

本号に掲載しております茗溪会賞芸術部門受賞者の作品等は、次号(夏号)に掲載いたします。

昨年11月に開催した「追悼のつどい」の様子を小泉いづみ理事に執筆していただきました。

「桐の葉のつどい」への投稿もお待ちしております。

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお問い合わせいたします。

表紙写真について

茗溪会館(P27参照)

現在の会館は(1995年)平成7年2月に旧会館跡地に竣工しました。地下1階には旧会館のステンドグラスが、受付とロビーのある1階の中央には大理石の柱が旧会館2階から移設されています。

2階、茗溪の間は、約200名まで利用できる宴会場(会議場)で、2室に分けることもできます。

この会場であつて結婚披露宴を行ったという茗溪会員のご夫婦がカフェハルテラスでアフタヌーンティーを楽しんでいる光景に目頭が熱くなりました。

・4階は、10名程度の少人数から50名程度まで利用できる研修室が4部屋あつて、それらには筑波、新泉、占春、紫峰のように東京教育大学、筑波大学に因んだネーミングがされています。

・なお、この会場での飲食代金は茗溪会員、筑波大学生、卒業生であれば10%OFFとなっています。

編集後記

4月に入り満開の桜を愛でる中、入学式、入社式が各地で行われています。

今年の新社員は「変化を呼び込む、新紙幣タイプ」(産労総合研究所)と言われます。新社員は多様性を受け入れ、最新のITリテラシーを身につけている一方で、新紙幣の導入にあたっては設備や投資が必要となるように、新社員を受け入れる側はコミュニケーションや育成の方法を変えていくことが求められるところからそうです。

最近硬貨を使用する機会が徐々に減ってきていますが、これまでに日本で発行された硬貨で桜が描かれたものは2種類、1957年～1958年の百円硬貨と1967年～現在までの百円硬貨です。

(事務局)

令和7年4月15日発行

発行 一般社団法人 茗 溪 会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚 一五二二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

Email info@mekeior.jp

URL http://www.mekeior.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台 一一一

筑波大学・大学会館内

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

Email tsujimu@mekeior.jp

印刷 東京都文京区関口 一三九一〇

山浦印刷株式会社

事務局からのお願い

季刊誌「茗溪」では会員みなさまの諸活動を本誌に掲載したく、広く原稿を受け付けております。

同期会・クラス会に止まらず、サークル・同好会のOB・OG会、はたまた気の合うお仲間等々、そして各地域組織の諸活動などをご寄稿いただきたくお待ちいたしております。状況が分かる写真を添えていただけるとなお結構です。

原稿・写真の送付先は、メールはinfo@meikei.or.jpへお願いいたします。封書又はファックスでも結構です。皆様からのご投稿をお待ち申し上げております。

一般社団法人 茗溪会 季刊誌担当

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 TEL: 03-3941-0136 FAX: 03-3941-7674

 **株式会社 阿部兄弟建築事務所**
平成26年度東京ワークライフバランス認定企業
<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032
東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル
代表取締役 **荒井 豊人**(昭和57筑基工)
TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120

 **株式会社 十和観光**
代表取締役社長 **井坂 信洋**

URL <http://www.juwa.com> E-mail travel@juwa.com
〒300-2451 茨城県つくばみらい市箕輪254
TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～
<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ
代表取締役 **藤田 文武**(体育専門学群 2004年卒)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケエスアイ**

本社 〒557-0063
大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

 **株式会社 長谷工 コーポレーション**

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)4501

取締役副社長執行役員 **植岡 祥之**(昭57筑社工)

学校服のことなら

株式会社 **オリムピア**

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 1-43-6

TEL:03(3654)2251 FAX:03(3651)2323

<https://www.s-olympia.com>

取締役 **渡邊(草間) 悟**(56 農林・62 博農)

集めるのは「知識」と「技術」

さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオントを形にする会社

PiCK & MiX

Keeping Up Innovation with Integrating
Art & Technology

株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 **松村直樹**

<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC
Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者:代表取締役社長執行役員 **谷輪 重之**(93筑修経営)

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション!

新・教職課程演習

全22巻

筑波大学人間系教授 **清水美恵** 監修
広島大学大学院教授 **小山正孝**

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、
広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として
初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製
定価:1,650円~2,640円(税込)



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>

「新・教職課程演習」全22巻



Restaurant&Cafe

ランチ・カフェ・ディナー

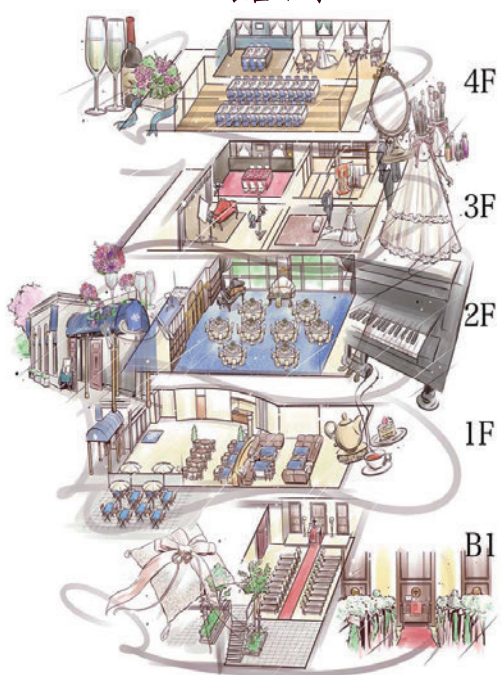
“嘉ノ雅” 茗溪館 KANOB MEIKEIKAN Wedding 結婚式・結納・フォト

Party&Meeting

宴会・同窓会・会議



嘉ノ雅 茗溪館 館内 MAP



4F コンベンションホール
個室

3F 貸衣装サロン
茗溪写真スタジオ

2F バンケット
イベントホール

1F カフェ・ホール・テラス
フロント・クロック

B1 挙式会場

茗溪会会員・筑波大学生・卒業生の皆様だけに贈る

ご優待特典

ご婚礼 特典あり ※詳しくはスタッフまでお尋ねください

お食事 ご飲食合計（税サ別）より 10%OFF

お食事会・ご宴会・会議のご予約も承ります

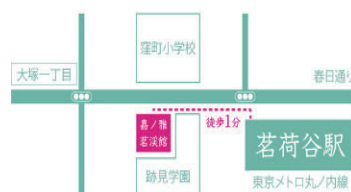
大ホール（2F 茗溪） 最大 120 名様
小・中ホール（4F 筑波・新泉） 28 名～ 72 名様
個室（あけぼの・占春） 6 名様～ 18 名様

ご利用料金は、人数・利用部屋によって異なります。
音響設備・スクリーンの使用など、別途料金（¥10,000～）が発生いたします。
ご利用の場合は、ご予約・お支払時に在学証明書・名刺・茗溪会員証などの掲示をお願い致します。

※全て着席時の人数記載となります

お気軽にお問い合わせくださいませ

池袋駅から約 5 分・東京駅から約 10 分。
東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩約 1 分。



“嘉ノ雅” 茗溪館

KANOB

MEIKEIKAN

TEL: 03-5319-1890

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-5-23
HP: <http://www.kanobi-meikeikan.com/>

問い合わせメールアドレス: info@kanobi-meikeikan.com
営業時間: 11:00～20:00 定休日: 不定休 ※要問合せ

▼HP▼ ▼LINE友達募集中▼



ID:@enc2843s

忙しいご子息・お嬢様に 必要なのは、誇りが持てる 出会いのフィールド。

キューピッドは、お一人おひとりへ
丁寧にご紹介する会員制クラブです。
個性・人柄を見極め、最適なお相手を選ぶマイスター。
10年、20年、30年…と幸せが続くご結婚カップル。
「勧めてくれてありがとう。」
お子様の感謝の言葉が待っている。
出会いのフィールドがここにあります。

キューピッドクラブ

検索

4,700通の結婚カップルメッセージで信頼性をご確認ください。

キューピッドの
結 婚

筑波大で出身の皆さまへ

ご入会の際、
キューピッド推薦のスタジオ写真
撮影料金(3万円相当)を
特典サービスいたします。

キューピッドクラブは慶應義塾大学OB間の親睦パーティから、1980年設立。2025年45周年を迎えます。

■ お気軽に資料をご請求ください。

☎ 0120-0333-82



■ 入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

● 男性 25～45歳、定職におつきの方。● 女性 20～40歳

※ 入会に際して審査があります。



結婚に安心して向き合えるフィールド
Cupid Club

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル東館10F 03-5843-1581 公式ホームページ www.cupid.co.jp

東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金（税サ込）

シングルB（バス・トイレ別） ￥ 5,000～

シングルA（バス・トイレ付） ￥ 7,300～

ツイン（バス・トイレ付） ￥10,500～

朝食バイキング ￥ 1,200→¥980

大浴場時間 : 6:30～9:00 17:00～01:00



東京都新宿区新宿6-3-2
TEL 03 (3356) 4605
FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅 1番出口
都営新宿線 新宿三丁目駅 C7出口
地下鉄副都心線 新宿三丁目駅 E2出口
JR新宿駅より車5分 } より徒歩7分



「安心」「安全」「快適」な
ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティ



FAAM



ESMO



No Man



Do RAY

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
ITソリューションをご提供いたします。

株式会社FYF

～ ITソリューションでより良い未来を～

会社 HP <https://www.fyf-h.com>
x (旧 Twitter) @FYF_INC

本社 〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6
TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929

関西支店 〒530-0026 大阪府大阪市北区神山町 1-5 扇町公園ビル 6F
TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023

九州支店 〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモンドビル 5F
TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453

東北支店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F
TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291

北海道支店 〒060-0062 北海道札幌市中央区南二条西 1 丁目 1-2
21 きのしたビル 9F
TEL 011-206-7482 FAX 011-206-7483



【会社 HP】

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚 1 丁目 5 番 23 号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp

広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚 1 丁目 5 番 23 号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ http://www.meikei.or.jp

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は 1979 年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆国際バカロレア IBDP 課程認定校です
- ◆「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です
- ◆文部科学省 SSH（3期目）認定校です

学園説明会：

オープン・キャンパス 4月26日(土)

海外での説明会・相談会

5月 バンコク、ヨーロッパ

6月 シンガポール

公開行事：桐創祭(文化祭)6月6・7日(金・土)
(詳細はホームページでご確認ください。)

教員募集 について
情報はQRコードから
ご確認ください。



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)